

平成 2 6 年第 2 回 邑 楽 町 議 会 定 例 会 議 事 日 程 第 3 号

平成 2 6 年 6 月 1 7 日（火曜日） 午前 1 0 時開議

邑 楽 町 議 会 議 場

第 1 一般質問

○出席議員（14名）

1 番	塩 井 早 苗 議員	2 番	原 義 裕 議員
3 番	松 村 潤 議員	5 番	神 谷 長 平 議員
6 番	半 田 晴 議員	7 番	坂 井 孝 次 議員
8 番	大 野 貞 夫 議員	9 番	田部井 健 二 議員
10 番	小 沢 泰 治 議員	11 番	岩 崎 律 夫 議員
12 番	小 島 幸 典 議員	13 番	立 沢 稔 夫 議員
14 番	本 間 恵 治 議員	15 番	細 谷 博 之 議員

○欠席議員（なし）

○地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

金 子 正 一	町 長
堀 井 隆	副 町 長
大 竹 喜 代 子	教 育 長
飯 塚 勝 一	総 務 課 長
橋 本 喜 久 雄	企 画 課 長
諸 井 政 行	税 務 課 長
吉 田 紳 二	住 民 課 長
相 場 利 夫	安全安心課長
河 内 登	健康福祉課長
多 田 哲 夫	子ども支援課長
大 拙 一	農業振興課長 兼農業委員会 事務局 長
半 田 実	商工振興課長
小 島 靖	都市建設課長
小 島 敏 晴	会計管理者 兼会計課 長
茂 木 一 夫	水 道 課 長
神 山 均	学校教育課長
半 田 康 幸	生涯学習課長

○職務のため議場に参加した者の職氏名

小倉章利	事務局長
田部井春彦	書記

◎開議の宣告

○本間恵治議長 これより本日の会議を開きます。

〔午前10時00分 開議〕

◎一般質問

○本間恵治議長 日程第1、一般質問を昨日に引き続き行います。

発言を許可します。

◇ 坂 井 孝 次 議 員

○本間恵治議長 7番、坂井孝次議員。

〔7番 坂井孝次議員登壇〕

○7番 坂井孝次議員 皆さん、おはようございます。また、朝からちょっと先走ってへまをして、笑いを買ってしまったが、ひとつよろしくお願ひしたいと思います。

最近のマスコミ報道で、特に少子化問題、きのうも一般質問でたくさんありましたけれども、そのものがたくさん報道されるようになりました。中でもその中で一番目を引いたのは、消滅可能性都市896、全リストの衝撃というものです。少子化がこのまま進むと、2040年には自治体の半数に当たる896市区町村が消滅するという記事のものです。ちなみに、全国自治体の数は、2014年4月10日現在で1,789あります。本当にちょうど半分が消滅すると。消滅するといってもなくなるわけではないのかもしれませんが、そういうことで記事が載っています。皆さんもご存じだと思いますけれども、群馬県ではそのリストの中に19の市町村が載っています。残念なことなのですが、この邑楽町もその中に入っています。これは本当に大変なことなのですが、そうかといって二十数年後のことということになると、本当に切迫感というのはなかなか湧いてこないと思います。

しかし、どうしたら少子化が止められるか真剣に考えなければなりません。既に国、県、市町村をはじめいろいろの対策がとられています。その中で、私も1つ対策案というものを考えてみました。観光事業に力を入れるということです。それが少子化対策に効果があるというふうに考えております。幸い邑楽町は意識調査では、自然環境に恵まれ、住み心地がよいという町で評価されております。この邑楽町のよさを首都圏を市中心に積極的にPRする。そうすることによって、UターンとかIターンに続くものと思っております。そうすることが少子化をおくらせる一つの要因になるかと思っております。ちなみに、ご存じだと思いますけれども、Iターンというのは、都市出身者が地方に就職をして、そこに定住することだと言われております。

私は、観光事業の推進が少子化対策に有効との考えで質問をさせていただきます。商工振興課長に質問させていただきます。平成22年、平成23年、これデータオブオウラというこの資料がありま

すけれども、ここの観光というところにですけれども、シンボルタワー入館者数というのだけしか載っておりません。町としては、どのような観光資源を観光の中心に据えられるか、その点をお聞きしたいと思います。よろしくお願いします。

○本間恵治議長 半田商工振興課長。

〔半田 実商工振興課長登壇〕

○半田 実商工振興課長 お答えいたします。

本町の主な観光資源としては、町内に点在する神社仏閣を中心とした歴史的遺産、多々良沼公園、シンボルタワーを中心とするおうら中央公園などがあります。中でも、平成5年の開館以来30万人が訪れているシンボルタワーや冬季に白鳥が飛来することでも有名なガバ沼を観光の核として位置づけております。

以上でございます。

○本間恵治議長 坂井孝次議員。

○7番 坂井孝次議員 最近、多々良沼の周辺の整備が大変進んでおります。そのためか、大型バスが何台か見えるようになりました。このような観光客の数は年間どれくらいか把握されておりますでしょうか。よろしくお願いします。

○本間恵治議長 半田商工振興課長。

〔半田 実商工振興課長登壇〕

○半田 実商工振興課長 お答えいたします。

多々良沼周辺の観光客の推移につきましては、データをとっていませんのでわかりませんが、大型バスは去年の5月に10台くらい見えました。また、白鳥が飛来する時期にはマイクロバスが毎年数台ガバ沼に来ております。

なお、ことは大型バスにつきましては確認をしておりません。

以上でございます。

○本間恵治議長 坂井孝次議員。

○7番 坂井孝次議員 また、この観光会社ですけれども、どのような観光会社が来ておられるか把握されておりますでしょうか。

○本間恵治議長 半田商工振興課長。

〔半田 実商工振興課長登壇〕

○半田 実商工振興課長 お答えいたします。

昨年ですが、多々良沼公園への進入路ですとか駐車場についての問い合わせにつきまして阪急交通社からありました。特にバスの駐車場等についての問い合わせがあったのですけれども、多々良沼公園にはバスの駐車場というのはありませんので、回送をお願いしたという経緯がございます。

以上でございます。

○本間恵治議長 坂井孝次議員。

○7番 坂井孝次議員 私は、阪急交通社とかそういう観光会社に出向き、町の観光資源に対してどういう要望がありますと、そういうことを聞くことによって町の観光資源に有効な手が打てるというふうに思っておりますけれども、担当の立場ではどのようにお考えられますでしょうか。

○本間恵治議長 半田商工振興課長。

〔半田 実商工振興課長登壇〕

○半田 実商工振興課長 お答えいたします。

まさに議員がおっしゃるとおり、観光会社に出向きまして町への要望を聞くということが大切なことだと思います。町では、全国町村会が主催する町イチ！村イチ！2014や県が主催する群馬観光PR展に参加し、邑楽町の特産品や観光について販売やPRを行ってきました。また、群馬県のアンテナショップ、ぐんまちゃん家を活用した、館林邑楽地区のものですけれども、サロン・ド・Gという観光PRイベントにおいて、新聞社、旅行会社の担当者に邑楽町のPRを行ってきました。

議員が言われた観光会社に出向き町への要望を聞くことにつきましては、大変貴重な意見だと思いますので、今後研究をさせていただきたいと思います。

以上でございます。

○本間恵治議長 坂井孝次議員。

○7番 坂井孝次議員 私は、町は既に観光会社には訪問しているというような話を聞いたものですから、そのときにどういう要望があったのかなという答えを聞こうと思っておりましたが、そういうことでたくさんのほうと接触されて、いろいろな情報をおとりになっているようですので、これからはぜひいい町づくりのために観光財産をうまく活用して、いい町、住みやすい町をつくるために頑張っていただきたいと思います。

次に、町長に質問させていただきます。住みやすい町を積極的に首都圏にPRすることがUターン、Iターンにつながると私は確信しております。町長のお考えはいかがなものでしょうか。よろしくお願いいたします。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 住みよい町を積極的にPRする、特に首都圏から近いということもありますから、そういう点でPRを積極的に行うということは大切なことだというふうに思います。先ほど課長のほうからもお答えをいたしましたけれども、それぞれの状況に応じて取り組んでいるという状況もありますので、課長がお答えしたような形をこれからは積極的に引き続き進めていくということで考えております。

○本間恵治議長 坂井孝次議員。

○7番 坂井孝次議員 次に、都市建設課長に質問させていただきます。

ことしの春、幸の池で整備事業が行われました。数日前ですけれども、私がそこを通りましたら4人の釣り人に、何だこの工事かと、初対面でしたが言われました。幸の池は、聞くところによりますと、管理が県とのことですけれども、この工事の連絡は町のどの部署にありましたか。

○本間恵治議長 小島都市建設課長。

〔小島 靖都市建設課長登壇〕

○小島 靖都市建設課長 お答えいたします。

都市建設課でございます。

○本間恵治議長 坂井孝次議員。

○7番 坂井孝次議員 そうしますと、県としては、この幸の池については都市建設課と連絡をとりながら進めてきたということでしょうか。

○本間恵治議長 小島都市建設課長。

〔小島 靖都市建設課長登壇〕

○小島 靖都市建設課長 お答えいたします。

幸の池もそうですが、孫兵衛川につきましても葦が発生いたしまして、池につきましては調整池といたしまして葦の発生を抑え、河川につきましても水流を阻害しないよう、県土木事務所に整備をお願いしておりました。

以上でございます。

○本間恵治議長 坂井孝次議員。

○7番 坂井孝次議員 何回も短い質問でご足労をかけます。そうしますと、幸の池の工事、この目的はどんなものだったのでしょうか。

○本間恵治議長 小島都市建設課長。

〔小島 靖都市建設課長登壇〕

○小島 靖都市建設課長 お答えいたします。

担当によりますと、葦の発生を抑えるためのものと聞いております。

以上です。

○本間恵治議長 坂井孝次議員。

○7番 坂井孝次議員 葦の発生を抑えるためということですが、工事の内容は聞かれておられますか。

○本間恵治議長 小島都市建設課長。

〔小島 靖都市建設課長登壇〕

○小島 靖都市建設課長 お答えいたします。

担当から工事の概要についてお話がありました。内容につきましては、池の周囲を葦の発生を抑えるため、岸から4メートルの範囲を掘削し、防草シートを敷き、その上にグリ石を敷いたという

ことでございます。

以上でございます。

○本間恵治議長 坂井孝次議員。

○7番 坂井孝次議員 4メートルを掘削されたということですが、水の中は我々は見えないのであれなのですが、私の見たところではシートの上に石が敷かれている、これは見えます。現在どうなっているかという、気候が暖かくなってきたせいか、池からメタンガスが発生して、シートが浮いています、ところどころ。そういうことで、草が生えないよりも生えていないということが目的なのですが、それによってかえって見にくくなっているように私には見えます。それで、ついでにお聞きしますが、工事費はどれくらいかかりましたか。

○本間恵治議長 小島都市建設課長。

〔小島 靖都市建設課長登壇〕

○小島 靖都市建設課長 お答えいたします。

約240万円と聞いております。

○本間恵治議長 坂井孝次議員。

○7番 坂井孝次議員 この池は、何人かの釣り人がおられます。その中の一人が、俺に10万円くれたらこんなものやってやると。極端なことを言えば捨てぜりふというようにもとれますけれども、そう言われました。ということは、この池に関しては、県だとか町だとか言っていないで、俺たちの財産だから俺たちにも使いやすいようにしてくれというように言われているように私は感じました。それで、やり方はいろいろとあると思いますけれども、そういう人を工事の中に入れて、水を抜くとかした後に一緒に草をとろう、きれいにしようということをすれば、ますますいい幸の池になる。そうすれば、みんな使っている人は幸せを感じて本当の幸の池になると思うのです。

それで、この池にはフナとタナゴが釣れるそうです。タナゴは、今希少価値に属するようなものですよね。そういうことで、非常にいい池だと思います。自分たちが釣りを楽しみたいために釣り場というものをつくっています。こういう形で、県から工事に関する連絡が町にあるということについては、町と一緒にいい財産にしていこうという考えがあると思うのですけれども、その辺に関して課長はどのようにお考えでしょうか。

○本間恵治議長 小島都市建設課長。

〔小島 靖都市建設課長登壇〕

○小島 靖都市建設課長 お答えいたします。

今後このような機会があればこちらからも提案を行い、よりよい方向に進むよう働きかけをしたいというふうに思っております。

以上でございます。

○本間恵治議長 坂井孝次議員。

○7番 坂井孝次議員 実は、この幸の池、看板が立っています。1年間は全く読めない状況でした。それは、アブラムシのふんがついて、真っ黒になっていて読めないのです。ということは、これは管理が我々ではないというようなことがその中にあったのではないかと、お互いが。県も、俺たちの管理だけれども、近くは町だからやってくれるだろうということで、現状をやっぱり見られていないと思います。

そこで、少し話を変えます。ことし役場の仕事につきましては、プラン・ドゥー・チェック・アクションという手法を使って、いい町づくりをしていくということが報告されました。町民に喜んでもらえる仕事をするという一つの手法だと思っています。

さてそこで、この整備事業の結果についてどのように判断されていますか。よろしくお願いします。

○本間恵治議長 小島都市建設課長。

〔小島 靖都市建設課長登壇〕

○小島 靖都市建設課長 お答えいたします。

防草シートを敷いたところでは草の発生が抑えられております。目的は達成をされたのかなというふうに判断をいたします。事業効果はあったと思います。

以上でございます。

○本間恵治議長 坂井孝次議員。

○7番 坂井孝次議員 確かに効果はあったということだと思うのですが、現場で見たりそこを使っている人に見れば、草が生えるよりもシートが浮き上がっていたら釣りはできないよという判断をします。こうすることで、いろいろ物をやったときには、やったところで判断する。やられたところ、使う人がそれによって判断する。結果的に判断が同じものになるということは絶対ありません。なぜかといえば、見る観点が違うからですよね。そうすることが、そこによって不満やクレームや要望、改善要求というのが出てくると思います。それであれば、最初からこういうことをやる。だから、皆さんにもここへ入っていただけませんかという取り組みが協働の町づくりだと思います。そういうことで私は考えておるのですけれども、そうかといって使う側だけに町の財産を自由に使わせていくととんでもない問題になります。かえって使いにくい問題になるということがあります。実は、中野沼でも利用者が釣りをするために自分で釣り場を確保しています。そうすると、個人でつくられた釣り場がたくさん出てくると、ほかの人はここでは釣れないということで、釣り場がないというクレームが出ています。私はここで言いたいことは、県と町にもっと緊密な関係づくりをしていただいて、町の資源を上手に使っていただきたいと。それには県と町だけではなくて、町の使う人たち、近くにいる人たちにも働きかけをして、こういうことをやります、皆さん、どうですか、一緒に入っていただけませんかという形をとっていくことが協働の町づくりになると思います。ちなみに、大昔は川普請、道普請、そういうことで、村のこと、町ことは、み

んないろいろ町の人たちが出て、自分たちの労力を使ってやりました。これだけ財政が困難になってきたら、これからはやはり昔のようにみんなに働きかけ、みんなに努力してもらう。みんなでいい町をつくっていく、こういうことでないと、いつもいつも依頼、依頼、頼む、頼むということでやっている、決していい町にならないと思います。金だけがかかって、それでクレームをもらっていたのでは冗談ではないと。お互いがそういうことになります。ですから、ぜひそういう点も考えていただいて、協働の町づくりというのを町長は昔から言われていますし、私もそういう考えで取り組んできました。ぜひそういう点を考えていただきたいと思います。

それで、最後にもう一度町長に質問させていただきます。近いうちに都市直下型地震が来るということが言われています。私も多分来るだろうと思います。皆さんもそう思われていると思います。そういう直下型地震が起きたときに、都市の機能が果たせなくなると人たちはどこへ行くかという、近隣の県に流れ込むと思います。これは間違いないと思います。ということは、首都圏に近いのは埼玉県、群馬県、千葉県、神奈川県とかということなのですけども、群馬県は今まで災害非常に少ないところですから、群馬県にたくさん人が流れてくると思います。ですから、そういう予測ができる現在、今だからこそ邑楽町の震災が少ない町、住みやすい町、資源の残った町、白鳥のいる町、たくさん挙げればいいところたくさんあります。それを首都圏近郊に大いにPRしてもらって、町にぜひ定住をしていただきたいというPRをすれば、少なからず何人かの人はそれに乗ってくれると思っておりますけれども、その辺については町長のお考えはいかがでしょう。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 先ほど前段に協働の町づくりについてのいろいろお尋ねがありましたが、私も実は、平成25年度からですかね、補助金をということでお認めいただいて進めておりますが、実はけさこのようなお話が町民の方からありました。それは今、これはちょっとごみのお話になりますが、ごみを集積場に持ち出していただいて、たまたま鳥でしょうか、そこから出して大変散らかっていたというようなことがあった。そのときに、そのごみを自分たちで片づけるというようなことで、本当にみずからそういったことを実行していただいている方のお話を伺ったわけですけども、このことをお聞きしたときに、私はまさに自分たちの町は自分たちできれいにし、自分たちで何とか環境を整えていくということのあらわれだなというふうに感じたわけです。地道なことではありますが、町で行う、行政で行う仕事というのは限りがあるという部分、それを思ったときに、町民の皆さんが一人ひとりそういったことを1つずつ、地味ではありますが、やっていただくことによって、この町がより一層住みよい町になっていくのかなというふうに感じたわけでもありますし、これからは行政として地域の住民の皆さん方にもそういったことをお話する中で、いわゆる協働の町づくりを進めていければというふうに思います。

それから、後段の都市直下型地震の部分で避難場所として町をPRすべきではないかとお尋ねで

すが、これについてはまさに東京圏から大変近くに位置している呂楽町でもあります。また、今通称北広場の公園整備事業も進めさせていただいておりますが、この広場、多目的にということで、1つにはそういった大きな災害が発生した場合に避難場所というような利用も可能であるというようなことの位置づけで整備をさせていただいているわけでもあります。したがって、呂楽町、都市直下型地震については危険区域ということの指定にはなりましたが、過去の災害の事例を見たときに大きな災害を受けたということもありませんので、そういう点では今後、先ほど観光事業とあわせて安心して生活ができる呂楽町であるというようなことをご指摘のようにPRをしていければと、そんなふう考えております。

○本間恵治議長 坂井孝次議員。

○7番 坂井孝次議員 今町長から力強い話をお聞きしまして、本当にありがとうございました。安心しました。ぜひこれからの町づくりのために町民の人たちにたくさん参加してもらって、いい町をつくろうという働きかけをひとつしていただければと思います。そうすることによって、本当にいい町ができることをお互いに力を合わせてやっていけば町の人も満足していただけるのではないかと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

これで質問を終わります。

○本間恵治議長 暫時休憩いたします。

〔午前10時36分 休憩〕

○本間恵治議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

〔午前10時50分 再開〕

◇ 塩 井 早 苗 議 員

○本間恵治議長 1番、塩井早苗議員。

〔1番 塩井早苗議員登壇〕

○1番 塩井早苗議員 議席番号1番、塩井早苗でございます。通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

タイトルは、児童の健やかな成長と発達のためにということでございます。昨日ですが、大野議員から学童保育と児童館の違いについて質問されました。学童保育は任意の団体でありまして、保護者と指導員の協議の上、運営されています。児童館は行政が運営している。大きな違いはその点と私は認識しております。実はその中で、学童保育ではできますけれども、児童館ではできていないことがあります。学童保育では、お泊まり保育、野外活動、手づくりのおやつ等がございます。それから、学童保育ですと、指導員は子供と一緒に遊べます。児童館の様子を見ますと、どちらかといいますと、指導の職員さんは遊ばない。どちらかというで見守っているだ

け。なぜ一緒に遊ばないのだろうかなんて疑問にいつも思っています。

予算のこと、今年度の予算を見てみました。児童館には2,643万円。4カ所に対して2,643万円の予算が組まれております。学童保育では1,292万円ということですね。この予算についてはちょっと置いておいてください。

児童館の歴史について触れたいと思います。昭和23年に児童福祉法が施行されまして、児童館は法律に位置づけられました。昭和26年、随分昔のことです。私の生まれた年でございます。63年も前の話です。厚生省児童局より児童館運営についての基本方針が出されました。昭和38年には市町村立の児童館について、設備や運営費、国庫補助制度が創設されています。以後に設置される児童館の水準は、それが影響されています。現在では全国に4,300もの数える施設数となりまして、児童福祉施設としては保育所に次いで多い施設となっています。児童館は、このように実は、国というのですかね、上からのこういうふうにあるべきですって示されたものです。その点、学童保育は、保護者と指導員が暗中模索しながらつくり上げてきた歴史があります。昔は支援金もありませんでした、親たちの負担だけで指導員のお給料を賄っていた。その昔、35年も昔ですけども、ある学童保育では4万円の給料で指導員をお願いしたことがあります。それは、私もその保護者の一員だったのですけれども、そういう熱意だけに支えられてやってきたというのが現状のようです。最近放課後児童クラブとしまして行政からの支援を受けられるようになったということは、先ほどの予算にもありますように、とてもありがたいことだと思えるわけです。

呂楽町の整備状況ですけども、昭和40年に篠塚地区に第1児童館、次には第2児童館、第3児童館と建設されまして、平成に入りまして名称を変えて、南児童館、北児童館、中央児童館と、新たに東児童館、明野に建設されまして4館になったわけでございます。中央児童館も先般開設から35年近くがたちまして、建物の老朽化と、耐震面が心配なため、建て替えを行っていただきました。ことしの4月、木のぬくもりのある新しい建物ができまして、竣工式で見せていただきました。これでハード面は充実しました。

では、その内容についてが今後の問題だと思うのです。そこで、呂楽町の児童館の運営方針を、所管ですので、町長をお願いいたしたいと思います。よろしくお願いします。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 町の児童館の運営方針ということですが、町のほうでは児童館を運営する場合に運営委員会がございまして、その中で幼児の指導、それから個別的な遊び、また児童クラブによる集団遊びの指導などを、遊びを通じて人とのかわりですとかルールを学び、心身ともに健やかに育てていくということを目的として、その協議会で協議していただいております。特に女性の就労の増加、少子化の問題、進行しておるわけでございますので、仕事と子育ての両立支援ということも兼ね備えまして、児童の健全育成を図るために児童館の中で放課後児童クラブも実施してい

るわけでありますが、そういった多面にわたりまして運営委員会の中で運営方針、それらを話し合っていたいて進めているというものでございます。

○本間恵治議長 塩井早苗議員。

○1 番 塩井早苗議員 運営方針をお聞きしまして、子供の健やかな成長のためにという言葉も出ま
してありがたい限りでございます。児童館は、児童福祉法第40条による児童福祉施設、これはご存
じですね、皆さん。屋内型の児童厚生施設でありますけれども、子供に健全な遊びを提供して、そ
の心身の健康を増進し、情操を豊かにするということが目的として挙げられています。しかし、屋
内型の福祉施設ですが、邑楽町ではやられていないのですけれども、活動は本当は建物内にとどま
らないということがうたわれています。地域児童の健全な発達を支援するための屋内外の地域活動、
また遠隔地でのキャンプ、必要な活動の一切を含んでいるわけでございます。これは運営の中では
遠方に出かけるということとはうたっていないので、だから邑楽町では行われていないのですね。
でも、実は住民の方たちからは要望がございます。学童保育にやりたいけれども、1万2,000円の
負担金、また8,000円とか1万2,000円の負担金を出すことができない。無料である児童館というの
はありがたい、そういうようなご意見でございます。そこのところをいかに、ギャップがあるので
すけれども、要望全てに応えることもなかなかできないですけれども、近づける努力というのは必
要なことなのかなというふうにその点では感じております。

遊びのことについては、遊びは子供の人格の発達を促す上で欠かすことのできない要素でありま
す。遊びの持つ教育効果はほかで補うことのできないと言われております。子供たちは、遊びを通し
て考え、決断して行動し、責任を持つという自主性、社会性、創造性を身につけます。言いかれ
ば、教育の中でも注目されている自立の要素が遊びの中に含まれていると考えております。

子供一人一人の状態を観察して、個々のペースに応じて自立していくことができるよう、専門職
員、児童館では児童厚生員と言っていますけれども、そういう方が支援しています。このように、
重要な位置づけであります児童厚生員に期待することが大きいわけです。児童厚生員の人の人柄、資質、
専門的な知識や技術、モチベーションによって子供たちのかかわり方に大きく差が出てくると感じ
ています。そこで、邑楽町の児童館の厚生員の方たちの資格、または研修の状態をお聞きしたいと
思います。よろしくお願いいたします。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 児童厚生員の資格、研修についてのお尋ねですが、児童厚生員の名称も平成11年に
変更があったようでありまして、児童の遊びを指導する者というふうに変ったようでありますが、
児童厚生員ということでおつなぎいたしますが、児童厚生員につきましては各館に5名ずつ配置を
しておりまして、特に北児童館については6人の計21人の児童厚生員ということで職員を配置して
おります。平日については、午前中に1名、それから午後には3から4名を基本にローテーション

で勤務をしていただいております。資格につきましては、児童厚生員21名おるわけですが、21名中3名が保育士、9名が幼稚園や小学校の教諭の資格、そして5名が保育士、幼稚園、小学校の両方の資格を持っているというような状況になっております。

それから、研修の件でありますけれども、群馬県の児童館連絡協議会が主催する児童厚生員研修会が年に四、五行われているということでありまして、児童厚生員が交代して出席をしていると、そのような状況でございます。

○本間恵治議長 塩井早苗議員。

○1番 塩井早苗議員 交代で出席されている。それからまた、保育士さん、幼稚園の先生、小学校教諭の免許を持ちということで、専門分野であるということがわかりまして、その点ではありがたいです。

それで、研修で見聞きしてきたことを、それをいかに現場に発揮するかということが大切なことだと思うのですが、それは今の既存の縛りで発揮することが窮屈になっている。三十何年前と今の児童館がなかなか内容が変わらないというのは、ほかの発達している児童館ですと、どんどん見聞きしてきたことを発揮して、次のステップに進んでいると思うのですが、そこが発揮されていないというような感じをちょっと自分では、これで誤解を受けてしまっては申しわけないのですが、個人攻撃しているわけではございませんで、そこで柔軟な運営をすべきだと思うのです。

それから、次の質問にちょっとあれなのですが、各児童館の利用状況、それをお聞きしたいのですけれども、よろしくお願いいたします。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 児童厚生員の研修をしてきたことについては、それが十分児童に指導ができるような形で今議員が言われましたように対応しているということで、私のほうからも担当課長をして指導していきたいと、このように思います。

それから、児童館についての利用状況ということでありますが、児童館の利用につきましては月曜から金曜日まで、利用人員は余り変化はないようでありますが、具体的に館ごとの1日当たりの利用人数ということで申し上げますと、南児童館が一般の児童が113人、留守家庭児童が47人、計160人。それから、中央児童館は一般の130人、留守家庭児童は75人、計205人。東児童館、一般が86人、留守家庭児童54人、計140人。北児童館が一般児童が80人、留守家庭児童55人、計135人。4館の合計で申し上げますと、1日平均640人余りの児童に利用していただいているということでありまして、特にこの数字につきましては、ことしの4月、5月、6月の平均値をもとにして算出をしたというような状況であります。平日以外に夏休みですとか学校の長期休暇の期間については、一般の児童が通常時の約54%、それから留守家庭児童の約78%の方に利用していただいているというような状況でありまして、大変児童館を利用していただいているというような状況でございます。

以上でございます。

○本間恵治議長 塩井早苗議員。

○1 番 塩井早苗議員 では、ちょっと確認なのですが、夏休みや長期休暇のときは54%、78%と減るわけなのですね、利用人数が。私は、実は夏休みや長期休暇の日にはふえるものだと思っていました。それは、就労しているお母さん方も夏休みをとれる方というのはそういないわけですし、お盆休みが二、三日あったとしてもないので、子供をみんな児童館に出すのでふえるというふうに思っていましたけれども、数字としては違うということがわかりました。お答えいただきましたように、児童が来館しまして、放課後を過ごすたくさんの児童がいるということがわかりました。最初お聞きした人数よりもかなり多い人数がいるわけです。この需要はますますふえていく。働くお母さんやお父さんたち、仕事を継続していくために児童館はなくてはならない。学童保育もそうですけれども、ふえていくというふうに思います。実は、この子供たちが安心して帰れる場所としての児童館はもちろんなのですが、学童保育でも、きのう話が出ましたけれども、ただいまって帰れる場所にするということで、長年目指してきたものですね。児童館もそういうふうにただいまって帰ってくる、そういう状況なのだと思いますけれども、それは同じように学校の近くにあって安全に移動ができるということを配慮した場所に、いつも邑楽町がその児童館をつくる際にその点に一番留意しながらつくってくださったので、子供の安全は守れるのかなというふうに感じます。

それから、児童館の機能として求めることなのですが、先ほど出ました働く保護者、就労の支援ですね。それから、さらに地域ボランティアの育成とか地域の協働の子育て支援等があるとうたわれています。児童館の設置条例の中では、残念ながら邑楽町ではうたっていませんけれども、全国の児童館にはさまざまなそういう行動を、アクションを起こしております。その機能を持った児童館がありまして、興味深い成功事例がありますので、挙げてみたいと思います。川崎市の児童館は、土曜日、日曜日、祝日も開館しておりまして、さまざまな子育て支援活動を行ってきたとのこと。まず取り組んだのが平日の午前中、乳幼児保育を対象にしたお母さんとともに遊びを提供する事業です。絵本の読み聞かせや季節の工作、それから幼児体操などを行い、年に何回か地域ボランティアや専門の先生によるベビーマッサージ、リトミックというのが挙げられます。この活動を通して広く児童館が知られるようになりまして、乳幼児、親子の利用を広げることができたということです。今、午前中は1人の指導員の方ということですが、午前からも体制を整えて、若いお母さん方、自宅にいるお母さん方に来てもらって、1人で子育てを悩むのではなく、児童館が支援していくということです。邑楽町では検診とか保育園で行われている子育て支援事業で赤ちゃんを連れてお母さん方が来ているというのをよく見ていますけれども、児童館にそれがつながっていくって限らないので、児童館での活動内容も地域への支援としてあっていいのではないかと考えております。また、先ほどの川崎市の事例ですが、近隣の3館が協力して土曜日に家族向け事業を展開しまして、多くの家族が訪れて、中でも父親が楽しそうにふえて参加されたということです。

バームクーヘンをつくったり、木工作業をしたり、その後パパクラブ、お父さんのクラブに発展しまして、父親が子育てに参加しやすい環境づくりが整い、さらにはそれが地域活動に広がったということなのです。親子で乳幼児から継続しまして児童館を利用することで、小さいときから地域の知り合いがどんどんふえます。地域での会話がふえることは、いい人間関係が生まれると思います。どの子も地域ぐるみで寛容に守られるということで、安心して育つことができると思います。

今の邑楽町の児童館の現状では、親たちは児童館と地域に深くかかわり合える状態ではないというふうに考えられます。市町村の考え方によりまして、児童館のあるべき姿に格差があって、個々の児童館によって運営方針や内容に市町村間の格差があることは事実でございます。学童保育ではできても児童館ではできないことがあるということですね。その格差を縮めていくことで子供たちが平等に恩恵を受けられるのではないかと考えますが、町長のお考えを聞かせていただけますでしょうか。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 ただいまは先進地の事例をいろいろいただきました。これからの運営の参考にさせていただきたいと、このように思います。

さて、邑楽町の児童館についてのよいところということでありますけれども、今議員のほうからもご意見ありましたが、小学校に近い、隣接しているということがありまして、学校の帰りにそのまま利用ができるというようなこと、それから無料といいますか、その使用料も無料で利用できるということで気軽に使っていただけると。そしてまた、小学生が来る前に幼稚園の園児の親子で利用していただいているというような状況もあります。

学童保育との差ということになります。学童保育では20人あるいは30人ぐらいの利用で固定され、有料になっているという状況は昨日の一般質問の中でもありましたけれども、そして多様な授業、行事も行っておられまして、父母会が中心となって運営をされていると。言ってみれば家族間での交流がきめ細かく行われている、そういうよい点がご意見としてありましたが、そのとおりだというふうに思っています。児童館のほうでもやはり子供や親子で参加できる行事などは行っていくということは、これはもちろん重要なことでもあります。しかし、先ほど申し上げましたが、利用人数が大変毎日多くなっておりまして、特に中央児童館で200人を超える利用があるということを考えますと、その実施する内容につきましてもやはり制限があるというような状況もあります。しかし、子供たちが健全に情操豊かな子供に育っていくことは大切なことでもあります。今後、今先進地の例でボランティアの方、多くの方が利用して活動していただいているということもありますから、これらのいわゆる講座ですとか行事等を行う場合にそういった環境も充実をさせるような努力はしていかなければなりませんし、ボランティアの方にも協力をいただくようなことも今後進めていくようなことを考えていきたいと、このように思っております。

○本間恵治議長 塩井早苗議員。

○1 番 塩井早苗議員 児童館ももっといいこともあります。児童館の開園時間も延長になりました。午後6時半まで開園しております。住民の多様なニーズに次から次へと行政も応えていくのは大変だと思います。それを十分承知ですが、しかしながら3点だけ児童館の改善についてお願いしたいことがございます。それは児童館のおやつです。以前はおせんべい等を希望者に出していたというふうに伺いました。今はそれも行われていないということなのですけれども、二百何十人の子供たちにおやつを与えるということは大変困難なことだと思うのです。しかしながら子供の成長段階で重要なことは食育でございます。邑楽町には優良な農産物がとれます。ジャガイモ、サツマイモ、トウモロコシ、小麦粉、御飯、白菜、もう切りがなくあります。その食育の部分の中で、おやつにゆでたジャガイモでもいい、蒸したサツマイモでもいいのです。トウモロコシでもいいです。あるときはみんなでうどん打ちなどをボランティアに入っていていただいてもいいでしょうというふうに考えておりますが、みんなでうどん打ちはその後のこととしても、おやつの部分を、6時半まで延長している子供に何のおやつもないというのは、これは考えます。そのところで子供の大切な発達を願う意味で、食事は1日3回とりますけれども、おやつはその中の栄養素をとる子供にとっては重要な食事でございます。それなので、おせんべいとかではないものを検討できないだろうかというふうなお願いがございます。

2点目は、長期休暇、春休みや夏休みのときのことです。あるお宅では、おじいちゃん、おばあちゃんが家にいるということで、昼になると迎えに行かなければならないのだそうです。家で昼御飯を食べさせて、また送っていくという。おじいちゃん、おばあちゃんが忙しいときやお迎えが大変な日は仕方なく利用させないで過ごさせるということです。留守児童家庭はお弁当持参でお弁当を食べているということなのですけれども、どうにかおじいちゃん、おばあちゃんがおうちにいる家庭でも希望者には弁当を持たせていくことで、夏休みのことなのですけれども、対応できないだろうかというお願いです。

3点目は、登録制の柔軟な運用です。こういう事件がありました。児童館をいつも使っている父兄が次の登録を忘れ、登録していないにもかかわらず、子供を出してしまったのです。お母さんは仕事でしたので、急いで職場に出かけてしまいました。実は、子供さんは児童館に行ったけれども、登録がしていないからということで帰されてしまったのだそうです。子供は仕方なく近所の友達のうちに行って、友達のうちがちょうどいたのでよかったですけれども、そこで一日過ごしたそうです。これは、今最近子供が被害に遭う事故、事件が多くて、お母さんは行っていて安心して仕事したのにもかかわらず、子供を帰してしまったということ自体が問題であって、その登録はお母さんが迎えに来たときにやってもよかったのではないかな。または、登録ができていないお宅に連絡して、まだ登録が済んでいませんけれどもという一声の電話一本があってもいいのではないかなって、そんなふう考えております。この3点について町長のご意見をお聞かせいただけますでしょうか。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 まず、1点のおやつの関係については、児童館のほうでは食べ物を提供していません。確かに議員が言われますように、留守家庭児童の子供については6時半までという長時間にわたるということについては、議員がご指摘のとおりだと思います。しかし、毎日ではありませんけれども、行事の中でいろいろ食べ物に対しての行事、具体的に焼きパンづくりですとかマシュマロフレークづくりですとかそういったことを行っているようでもあります。呂楽町、大変農業振興の地域でもありますから、特に最近では食物アレルギーを持っている子供さんも多くなっている状況もあります。地域の農畜産物ですかね、そういうことを取り入れた行事も含めた中でそういった、少しであります、対応もできるのではないかと、このように思っております。毎日ということになりますとなかなか難しい状況もあるわけです。

2点目の長期休みの弁当の件ですけれども、これは言いわけになってしまいますが、利用する児童が大変多いということで、昼食のときにはテーブル、そういった備品が不足するというような状況がありまして、床で食べていると。弁当を広げているという状況もあるようでもあります。家族との食事の時間を大切にすることで家へ帰られる方もあるようではありますが、努めてそういうことが改善されるような努力はしていかなければいけないかなというふうに考えている次第でもあります。

それから、3点目のこの問題については、大変そのような状況があったということは申しわけなく思っております。登録をしていただくということは、けがですとか体調不良、いろいろな緊急事態が発生した場合に連絡がとれるように利用者の方をお願いをしているわけでもあります、しかし登録がなかった。そして、来館したという子供さんを帰してしまったということは、これは大変申しわけないことでもあります。今後これらについて、このようなことが事実あったということですから、ないように注意をして指導していきたいというふうに思っております。大変この関係者についてはご迷惑をおかけしたことについておわびを申し上げたいと思います。

以上でございます。

○本間恵治議長 塩井早苗議員。

○1番 塩井早苗議員 児童館の機能を拡大するということで、先進事例のところだと、不登校やいじめへの対応を児童館と学校も協同して連絡とり合うということも挙げられます。虐待など深刻な問題の早期発見も児童館が担っていることもあるそうです。地域諸機関との団体との連携を図る中で、子供や子育てに優しい総合的な福祉の町づくりを目指していただきたいと思います。既にある児童館の機能を拡大することで、より豊かな子育て支援につながると思います。今度、呂楽町の子育てビジョン、どのような豊富をお持ちでしょうか。

○本間恵治議長 金子町長、簡潔にお願いします。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 平成27年度から子ども・子育て支援新制度がスタートいたします。これは消費税の引き上げによって財源を確保して、子ども・子育て環境を整えるということでもあります。ひいては幼児教育、それから保育、地域の子供、子育て支援の質と量を拡充するということでもありますから、今後町のほうでも子ども・子育て支援事業計画の策定が義務づけられておりますので、昨年町のほうでも邑楽町の子ども・子育て会議が設置されましたので、この新制度に向けた計画については、議員が言われますように、児童の養育の充実を図っていくように努めていきたいと、このように思っております。

○本間恵治議長 塩井早苗議員。

○1番 塩井早苗議員 子ども・子育て会議でしっかりと対応してくださるというご答弁をいただきましてありがとうございます。児童館の目的は、「すべての子どもの生活の保全と情緒の安定を図って、一人ひとりの個性と発達段階に応じて、全人格的に健やかに育てる」というふうにうたわれています。児童館自体も今後取り組むべきことを具体的に話し合い、さらに発展することを願います。

私の一般質問を終了させていただきます。ありがとうございました。

○本間恵治議長 暫時休憩いたします。

〔午前 11時30分 休憩〕

○本間恵治議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

〔午後 1時00分 再開〕

◇ 小 島 幸 典 議 員

○本間恵治議長 12番、小島幸典議員。

〔12番 小島幸典議員登壇〕

○12番 小島幸典議員 皆さん、こんにちは。12番、小島幸典です。議員の責務により、組織を持たない声なき声の町民の代弁者として、通告どおり一般質問をいたします。

サッカーの祭典であるワールドカップブラジル大会が13日開幕し、開幕戦でブラジルがクロアチアに勝利し、隣町の大泉町文化むらでは約140人の観衆が興奮ぎみに勝利を祝ったと報じられています。

また、群馬県の名産、絹織物の富岡製糸場がユネスコの世界遺産委員会の会議審査を15日から受け、21日にも登録決定の見通しで、県の大澤知事も現地へ行っているということでありまして、また地元の富岡市では観光客のラッシュでにぎわっていると報道されています。世界遺産の取り組みや2003年8月から当時の小寺弘之元知事と当時の石井東大名誉教授の尽力で約11年間の活動が実を

結び、これからの県民の誇りとして輝き続けるでしょう。

我が町でも織物産業で発展してきた地域の一つです。思い起こせば、町長も思い出さると思うのですけれども、れんがづくりの倉庫があったり、これは昨年解体の憂き目に遭ってしまいましたけれども、またれんがづくりの10メートル以上長い長方形の煙突があったり、また自費で1級河川に御影石で橋をつくって社会貢献をした人々を町の歴史遺産として大切に継承していくことがこれからの町づくりの一つの柱になると思いますので、町長は協働の町づくりを進めていますが、その延長線上、またそれと並んで町の人材育成、また歴史の再発見、そういう声なき声の代弁者として、私は歴史のことに关してきょうは一般質問をさせていただきます。

質問1として、町遺産認定制度を新設、町歴史等文化遺産の保護を私は新たに創設してもらえればということで町長にお願いしたいと思うのですけれども、それで町の指定文化財というのは、一応天然記念物または重要文化財等で約30件というのですか、そういうのが今うたわられています。こういう雑誌があるとおり。それと、邑楽町の遺跡ですね、これもまた古代からのものがあるのですけれども、そういう流れの中で、やはり富岡製糸場というか、明治、近代になってからのそういう我々の時代に消えていってしまってもいいものか悪いものか。私は、もう絶対にこれは守らなくてはならないと思うので、先ほど質問の一つに町遺産認定制度を、邑楽町遺産認定制度を新設して、そういう今までの功績をたたえる、そういうことも含めて町遺産の登録制度をつくってもらえればと、そういうことを提唱したいのですけれども、町長どうのお考えでしょうか。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 歴史、この遺跡、それから指定をするということについての認定というお尋ねですけれども、これは先代の方々がその時々時代の要請に基づいて活躍をされてきた。その結果としていろんな形での遺跡が現在町においてもあるわけでもありまして、それらについては今教育委員会のほうでそれらを管理し、そして保存について行っているという状況でもありますので、詳細については担当のほうからお答えをさせていただきますが、私はそういう歴史遺産、そういうものについては、やはり貴重な町の財産として保存し、継承していくべきだということについては議員の考えと同感でございます。

以上でございます。

○本間恵治議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 担当ということですので、お答えいたします。

まず、文化財につきましては、見つける、調べる、守る、広める、この4つのことをモットーにしまして、4名のその道の専門家の方に文化財保護委員として委嘱しまして、年2回委員会を開いて、また必要に応じてはその間に調査研究もしていただきながら、町の文化財を守り、町民に広め

るように努めておるところです。そしてまた、これらの文化財の保護につきましては、修復等の必要が生じた場合は、所有者に対しても修復費用の2分の1、上限を25万円と決めているのですけれども、補助する制度もあります。

世界遺産で富岡市はすばらしい、もうすぐ沸き上がるようなことが起こるかと思うのです。町のほうでもそういう制度はどうかということ、制度創設につきましては今後の課題、検討となります。今文化財保護委員とともに発掘をしたりして、守り、そして調べ、広めていくということは努力しているところでございます。

以上です。

○本間恵治議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 教育長のほうから説明を受けましたが、これは現在指定文化財一覧表に出ている指定されているものに対しての2分の1の補助ということで私は今受けとめています。これから今現在実存している個人が持っているそういう織物、昔機と言いましたね、織物を例えば保存してある納屋だとか、働いていた大きな木造の建物とか、それと先ほど話された町ではもうほとんど見られないような屋敷の塀ですかね、御影石でできていて、30メートルも40メートルもずっと昔のままの風情を保っている、そういうまだ指定文化財に認められていないもの、そういうことが指定文化財とは別に、私が言っているのは新しくそういう町として認めてもらえる。要するに富岡市のようなあれは世界の遺産ですけれども、邑楽町の遺産として、古代のものではなくて明治以降のそういう私たちが子供のころから親しんでいるそういう目で見えて、また人に教えられた四季折々の中での心の宝物というのですか、そういうことを私は提示したいのです。新しい町の尺度ではかって、だから今見つける、調べる、広めると。こういう中で、見つける流れの中で、そういう協働の町づくりの延長線上でもいいのですけれども、既定のものではなくて新しい、本当に残してもらいたい、そういうことを、私は新しいものの発想。今までのものはものでいいと思うのですよ、大事にしてくれたのだから。これからの新しいもの、違うものもあっていいのではないかと。そういう流れの中では、ある意味では中学生、高校生が委員に入ってもいいのではないかなと。おじいちゃん、おばあちゃんが一生懸命ここで仕事をやったのだよというようなことがあってしかるべきだと思うのです。そういうことを考えれば、新しい発想で、とにかく人材育成と。それと、社会産業の発展とを含めれば、もっともっとおもしろいというか楽しい町づくりになると思うので、補助金の2分の1というのは指定文化財の中での枠組みなのか、その辺ちょっと教えてもらいたいと思います。

○本間恵治議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 先ほど申しました文化財の保護に関しては、これまで指定されたものに限っております。

以上です。

○本間恵治議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 でありますと、指定されたものの30の一覧表の中のみんなすばらしい宝物ですよね、町としてみれば。でも、本当に私たちがずっと生きてきた中で、ふだんの生活の中でこれからもあってもらいたい。また、ずっと生活の中で若い人に伝承していかななくてはならないもの。それに対しての補助を私はやっぱりつけてもらえればと。そういう中で、今本当に税収も少なくなったり、それと固定資産税って、物を持っているだけでもかなり負担がかかっている状態なのですね。だから、赤れんがだってなくなってしまうのですね。そういうことを含めれば、ぜひこれ教育長の立場として、そういう新しい組織の中で邑楽町遺産を新たな視点で、指定文化財ではなくて邑楽町遺産として、そういう新設してもらえればありがたいなと思うのですけれども、教育長、ここで、議会なのですから、個人的な意見でいいですから答えてもらえればありがたいと思います。個人的でいいです。それがまず千里の道も一歩からですから。

○本間恵治議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 今までの重要文化財指定制度というのは本当にもう重要なものだけでしたけれども、町のということになりますと、やはり改めて見つけて、そしてそれを登録申請制度により登録していくという形で進めていくと思うのですけれども、この登録申請制度というのは国のほうでもあります。

〔「国じゃなくて町だけで新しくつくりたい。国なんか関係ない」と呼ぶ者あり〕

○本間恵治議長 議長に許しを得てから話してください。

○大竹喜代子教育長 それで、町のほうでもさまざまな文化遺産はあると思いますので、それをまず先ほどのように文化財保護調査委員さんとともに見つけて、そしてこれからそれを大事にしていくために制度をつくるとかいうのはこれからその調査委員さんとの会議の中で方向性を決めていきたいのですけれども、個人的としては、そういう大事なものですから、これからは町の遺産として何らかの形で大事に残るようにしていきたいとは思っております。ただ、個人的にそう思っても、町のシステムの中で守るということもありますので、補助のこともありますので、これから前向きに検討していきたいと思います。よろしくお願いします。

○本間恵治議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 とにかく私が、町長、また町の三役に申したいのは、本当にみんなが親しんで大事にしていたものがあっという間に消えてしまうのですね。そういう実例があります。元中野中学校の校長室の前にあった大きな石を思い出してください。あれどこいってしまったのでしょうか。みんな卒業式のときは記念撮影とか撮ったのですよ。あっという間になくなってしまうのですね。これはだから私が今提案しているこの石も、例えばみんな思い出のあるものを本当に、父親を亡く

したり母親を亡くしたのならば、ちゃんと名前が入って残ります。親しんでみんな遊んだそういう記念のものもあつという間になくなってしまうのですよ。これ公のことですから、れんがのこと、高沢のれんがづくりのあれ、我々いろいろな歴史の中で、スケート場をやったり、いろいろそういう歴史の中でなくなって寂しいという感じがあります。そういうことを考えると、町長、個人的ではなくて、今私の提案である邑楽町遺産の創設をどう思いますか。町長。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 登録の申請制度、町にある文化遺産を決まりの中で制定すべきではないかというようなことだというふうに思いますが、先ほども教育長のほうからちょっと出ましたが、国のほうではそのような制度があるようでありますが、町のほうではそのような制度はまだ設けておりません。登録制度そのものは町で、あるいは所有者がその遺産を保護していく、あるいは、価値と言うとちょっと言葉があれですけども、そのような遺産として残すべきであろうというような状況があった場合、調査委員ということがありました。そのものは果たしてそういうことに適合しているか、必要性があるかということも十分調査をしていかなければなりませんけれども、そういうことを踏まえて所有者からじかに申し出をしていただくということが原則になっているようでもあります。そういう中で、指導、助言、そして勧告を基本とするというようなことで、そういった文化遺産なり町の遺跡等が今までも数多く指定をされてきたのではないかなと、こんなふうに思っています。そういった制度をつくる必要があるのではないかというようにお尋ねですけども、これは当然公にということになりますといろいろな決まりをつくったり、その部分が、先ほど申し上げましたが、適合しているかということもありますから、十分これは慎重に考えていかなければいけない問題だというふうに思います。しかし、その制度をつくる前に、そういったものがやはり町として大切なものだという認識の上に立って今後検討していくということが必要ではないかなと、こんなふうに思っております。

○本間恵治議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 私が今感じたのは、町長から非常に温かい言葉をもらえました。すぐにというわけにもいかないでしょうけれども、とにかく歴史を大事にすることは人を大事にすることにつながることで、そういう人を大事にすると人が育ちます。そういう中で今度は、きのうも議員が話されたように、とにかく人口が少なくなっていく場合にはどこからか、原議員が言うように、集客または収入を得る道をたどると、かなり経済的にもまた文化的にも人の交流があるとアイデアとかそういうのがなってきた、結果的には邑楽町の活性化の、また指定された富岡製糸場ではないが、バスで押しかけるような、人がとにかく勉強しよう、どんなものだろうと興味を持つ、そういうことを考えれば、邑楽町にもまだまだいっぱいそういう、町の人たちが散歩コースを歩いても健康に寄与するわけです。どこか行ったらどういう話ですよと。さすが金子町長がつく

ったそういう制度はいいなとか、そういう一つのコミュニケーションの場にもなります。そういう流れの中でもっともっと、大事ですよ。文化財のこれからの掘り起こしも大事です。そういう指定文化財のとりあえず2分の1のいろいろの補助は出しますよと。実際に、ではここ2年間で補助金がどのぐらい使われたかということがわかったら教えてもらいたいと思います。参考のために。

○本間恵治議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 お答えします。

昨年度、八王子神社の古墳を指定に入れるということで、金額につきましてはちょっと今のところははっきりした金額はわからないのですが、10万円以下だったと思いますけれども、ここで出しました。ここ2年間の間にはそのような経緯があります。

また、金額については調べて。

以上です。

○本間恵治議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 急に幾らと言われても、ただ何件どのぐらいの、30件あるそういう指定されている宝物の中で、どのようなことをやって、またどのように町の人たちに認識してもらって、またそういう話題になったかと。そういう中で、私5月5日に実は鶉古城、ここへちょっとお祭りに行きました。かなり皆さんやはり興味があるというのですか、お茶の団体だとか各種団体が一生懸命とにかくお祭りを盛り上げていました。こういうことがいっぱいあっていいと思うのです。また1つ町長提案なのですが、せっかくこういうお祭りをやるのに、やはり近隣の人たちとか、館林市、大泉町、近くなら足利市の羽刈町だとかそういうところの、昔我々子供のころ露天商というのがありました。こういう露天のお店もどんどん参入してもらえ、そういう手はずを商工会通したり、そういうことをしてもらえれば、子供もいろいろの仕事があるのだとか、そういうところでまた働く人たちの会話もできる。そういうことを広げていけばもっと心豊かな、それである意味ではお金が流れる。とにかく町の役所の副町長を筆頭に交通整理とかそういうのをいっぱいやっていて、ボランティアで。そういうことを含めてどうですか。要するに露天商のよそからお店もどんどん来てもらう。フリーにしてもらって、もっと盛り上げることが大事ではないかなと。ただ30件だけが指定文化財ではなくて、いろいろほかにもあると思いますけれども、とにかくこれからはやはり隣の町、それといろいろの仕事の人たちと仲よくしていく、そういうことが大事ではないかなと思うので、その辺町長、ひとつ意見を聞かせてもらって、また町長のこれからの経済の指針を述べてもらえればありがたいと思います。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 5月5日に行われました多々良沼の弁天様を中心としたこの催しであります、そ

れらについて近隣市町との連携をもっと密にして親交を温めるべきではないかというお尋ねですが、私もそのようには思っております。

参考までにちょっと申し上げますが、私もその行事に参加をいたしました。そのときには大変町の茶道会の皆さんが、呈茶会というのですか、来た方々におもてなしをして、そういう催しもあったと。当初計画よりも大変多くの方に利用いただいたという報告も受けておりますし、当日は来客といえますか、2,000人を超える町民の皆さん、恐らく町外の方もその中に含まれているのだと思いますが、2,000人を超える多くの皆さんがその行事、それからいろいろな催し物に参加をしていただいたということでもあります。そういうことを考えてみますと、町商工会のほうでも初めての催しのようにありましたけれども、藤まつりとかその時期に合った、初めてこしやったという経緯のようですが、その後商工会の会長さんにも、出店の関係について商工会の会員の皆さんが行っていたということがありますから、もっと商工会の皆さんに啓蒙して、多くの方に出店をしていただくことがよろしいのではないかなというふうなお話はした経緯はあります。いずれにいたしましてもこういった催しをする場合に、やはり幅広く多くの方々に周知、啓蒙するというのは大切なことだというふうに思っています。今回は、町の新聞折り込みだったのでしょうか、そういう形をとって皆さんに呼びかけをしたというような状況もあるようです。したがって、次年度に向けて、やはりそういった体制を整えた中で、私どもで一番心配したのは駐車場の問題だったのですが、職員をはじめ多くの方の協力をいただいて事故なく行われたということは大変よかったなど、そのように思っておりまして、次年度以降についても十分準備を万端にして、そういった形で行われるということがよろしいと、そのように思っております。

○本間恵治議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 露天商の導入のことは、ちょっと町長は急に言われたので忘れてしまっていると思うのですけれども、これはぜひいろいろな人がいていいと思うのですよね。そういうことで一生懸命働く人もいて、そういうこともやっぱり社会の流れの中では我々がわたあめをお店で、私の前の道路で年3回のお祭りがあったわけですが、お盆前、正月前、3月のお雛さま前とか随分いろいろにぎわった経験があります。そういうことを考えると、人材の育成というのは大事だと思います。

そういう流れの中で、続けて第4問になりますけれども、去年邑楽町の中野中学校の恩師というか初代校長である岡部蒼風さんの記念行事がありましたけれども、これもやはり中野中学校の、先ほど大きな石云々ということは、岡部蒼風さんの力もあって、いろいろ記念の石とかそういうのがあったと思うのです。そういう中で、この前の会議でも言ったけれども、校歌ですね。校歌の、たまたま新聞に作曲をした井上武士さんて、これ生誕120周年記念を6月29日に、群馬県の群大を卒業した人だと思うのですけれども、有名な「チューリップ」の作曲者ですね。これはやはりすごい邑楽町の昔の校歌の作曲家であって、前橋市のテルサで記念音楽祭をやるのだと。前橋市のまちを

挙げてお祝いすると新聞に出ていましたよね。作詞者はどうかというと、これも沼田市の出身で林柳波さんといって、明治薬科大を卒業して、昭和49年に亡くなっているのですけれども、そうそうたる人たちの作品が呂楽町にあるということなのですね。そういうことを考えると、やはり私は先ほど、しつこいようですけれども、呂楽町の遺産としては、第1号でも第2号でもいいですけれども、岡部蒼風記念館を設けて、それでそういう元町長室にあった書画ですか、そういう額を大事に皆さんにいつでも見てもらえるようなことを始めてつくってもらえれば、これはもう人が集まるのは確実ですよ。そういうことを考えた中で、やはり町独自の歴史遺産というのをつくってもらいたい。そうではないと、今呂楽町公民館の庭に、これも私財をなげうって御影石の橋をつくった人がいるのですけれども、これも今は、私はきょう朝実は見えました。人が見られるような、裏庭ですから見えないですね。そういう1つの橋をつくるのに今だって何千万円かかるわけでしょう。それを自費で多々良川につくったわけですから、その欄干に大正橋って彫ってあります。そういうものをもっともっと大事にしなければ、人を大事に、育ちませんよ。用が済んだから捨ててしまうのだではなくて、やはりみんなが骨折って大事なお金でつくった、人のために貢献した、そういうものは本当に後世に残さなければならぬと思うのですよ。教育長、その辺の考えどうでしょうか。

○本間恵治議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 お答えします。

実は、私もその小島議員のおっしゃる情報を得まして、改めてその大正橋の石を見に行きました。本当に中庭に無造作に置いてあるような状況を見まして、これは何とかしなければというふうに感じた次第です。そのほかにもまだまだ多分見つければたくさんの町の財産があると思いますので、何とか工夫をして、それに日が当たるような展示の仕方も必要かなというふうに思いました。それを感じて、毎年1回になるのですけれども、文化財展を開かせていただいております、図書館のところで。そして、そこには本当に県外からも見に来てくださっているのです、そういうふうによつぱり人に広めていく場所、それからそういう機会をつくらなければいけないかなと、そんなふうには感じております。また、常設したい気持ちもありますので、これからどのような形で常設できるのかということも含めて検討していきたいと思っております。

以上です。

○本間恵治議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 本当に心のコもった回答をいただきましてありがとうございます。とにかく大先輩である、また指導者である人たちのものというのは、やはり人が死んでも生きていますね。そういうことを考えると、本当にこれはぜひ、とにかく町独自の物の考え方、どんどんあっていいと思うのです。そうではないと個性のある人は育ちません。そういう人を育てることによって、ふるさと納税とかそういうものにつながっていくことが大事だと思うのです。

そういう流れの中でもう一つ、これ町遺産認定の最後の質問になります。これはもう今国の政治の中でもすごくいろいろ問題になっている、閣議決定するのだししないのだと言っていますけれども、高島地区とか長柄地区にもあると思うのですが、中野地区、たまたま私近いので、ちょっと見てきた。何を見てきたかという、中野の英霊塔があります。これは、71名の戦没者をまつってあるというか置いてある英霊塔ですね、中はきれいになっていますけれども。71名のをずっと読んでみて、これはどここの今おじいちゃんかな、それとも、実は私のいとこなんか特攻隊の生き残りがいます。ちょうど80歳過ぎぐらいかなとか思い、見てきたのですけれども、こういうやはり町の人たちはいろいろの人生を送ってきています。そういうことの中で、これ心ある人であれば、71名の人が戦争で亡くなっているのだなと。これもある意味では政治を抜きにして、やはり邑楽町の中で、みんなでこういう人の歴史があるのだよと。本当に掘り起こすと、先ほど教育長が言ったように、もっともっと出てきます。だから、国や県ではなくて、町が独自のやはりお祭りだとかどンドン開くことによって、中には万物共通の心の持ち主、岡部蒼風先生なんかどンドン東京の高島屋あたりへあれすれば、もう売れた人ですから、東京からもどンドン来ますよ。白鳥の飛来に合わせたり、そういうことを考えれば。誰か午前中の質問でバス何台来ましたなんてありますけれども、1日回れば大体3カ所、4カ所はいろいろ見られることが普通であればいいと思うのです。そういう流れの中で、とにかく新しい町づくりを、協働の町づくり、一緒にやれればと思うので、町長、その辺どうでしょうか。ひとつ町長のお考えを。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 午前中の議員にもお答えしましたが、町づくりをしていくということの基本はやはり、行政もそうでありますけれども、町民の皆さんと一緒に、その町のあるべき姿をつくっていくということに尽きると思います。それにはやはり町民の皆さんの協力をいただく中で進め、いわゆる協働で町づくりをしていくということに尽きると思います。先ほども岡部蒼風先生の書画のお話もありましたが、この先生からも大変貴重な書画の寄附をいただいております。常設ということもお話の中にもありましたが、今中央公民館の建設に向けて設計等も進めていく段階になっているわけですね。そういう新しくつくる施設の中に、町民の皆さんが親しくそういう文化高い書籍を含め見ていくということは、議員が言われますように人づくりということにもつながるわけでもありますから、一緒になって町づくりをしていくという基本的な考え方でこれからも進んでいきたいな、こんなふうに思っております。

○本間恵治議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 町の遺産登録ということで皆さんにお願いしたのですけれども、そういう流れの中で、人づくりはとにかく人間の生活の中では一番大事なことであり、またある意味では一番やりやすい仕事だと私は思います。そういうことで、ひとつ頭に置いて、とにかく千里の道は一步

からということなので、とにかく事あるごとにいろいろこれからは私は提言していきますけれども、第1問はこれで終わります、第2問に移らせていただきます。

第2問は、町温泉掘削事業の創設についてということでお尋ねと提案しますが、高島地区では地下水は昔から、私なんか中学生時代だったと思うのですが、一番早く水道を引いた地区だと思います。冬でも水が温かいということで、とにかく温水だったんですね。そういう地下水の温水を利用し、町民に夢と安らぎを生む行政政策で観光事業の推進をしてもらいたいなど。平成元年では、ふるさと創生、1億円の資金の中に、邑楽町では56.5メートルのシンボルタワーをつけたわけですが、群馬県の赤城村とか高山村、東村、粕川村、富士見村と。そういう赤城村の周りの地区では、赤城村では温泉を掘り、温泉施設を建設し、公営日帰り温泉施設をつくり、ふれあいの家、ユートピア赤城と。2温泉をつくったと。高齢者福祉施設とか診療所などが集まる場所なので、ピーク時から今はもう半減したということなのですが、両施設には今でも、現在でも年間約30万人が訪れると。ちょうど赤城山があって、そういう観光の通り道もあると思うのですが、人々の交流の場となっているということで、これも最近の新聞でも出ています。邑楽町でも国道の354号が開通とともに、122号の交差する信号、東龍舞から寿荘、石打地区まで10分で来ます。冬は白鳥の沼を持つ。また、スポーツでは少年サッカーで全国制覇をした経験や、私も再三言いますが、上武洋次郎氏のレスリング競技オリンピック2連覇などそういう記念大会が十分開ける、そういうことを考えれば、集客の努力をしたらもっともっと発展する地区ではないかなと。そういうことを考えれば、館林市のツツジなんかでは、最近はメディアとかインターネットですから、富山県、要するに日本海のほうからも実は来客が来ていますよね。そういう流れの中で考えたら、やはり地の利がある高島地区の、1度断念はしたらしいのですが、そういう掘削をできればと。それで、とりあえず現在、今寿荘は水道水を使っているということなのですが、水道水の年間の使用料と、それと光熱費はどのぐらい使っているか、わかったら教えてもらいたいと思います。

○本間恵治議長 河内健康福祉課長。

〔河内 登健康福祉課長登壇〕

○河内 登健康福祉課長 答えをいたします。

寿荘での光熱水費ということでございますけれども、これちょっと大変申しわけないですが、平成25年度しか私も今調べてありませんので、平成25年度ということでお答えをさせていただきます。寿荘については水道を重油で沸かすような形でやっておりますけれども、重油の使用金額というのが年間で約340万円ほど、それから水道についてが約175万円ほどを使用しているという結果が出ております。

以上でございます。

○本間恵治議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 今ちょっと調べてもらった中でも年間515万円ぐらい燃料費と水道費とでかかっていると。そういうことを考えた場合、これからのそういう、水もとにかく財産、そういう流れの中で、それと重油、これも輸入しなければ日本ではなかなか使えない。そういうことを考えた場合、やはり地の利というのですか、町にあるものをいかに自分のものにするか、そういうことを考えた場合、これは本当に町長含め我々議員が一生懸命これは考えなければ、町の将来は豊かになりません、はっきり言って。ということは、提案するのは最終的には町長であって、決めるのは議会であるのですから。そういうことを考えると、正式には石打源泉というものらしいですけども、掘削の、約250メートル掘ったというのですけれども、工期はどのぐらいの工期をかけてこの当時つくったのですか。

○本間恵治議長 河内健康福祉課長。

〔河内 登健康福祉課長登壇〕

○河内 登健康福祉課長 大変申しわけないのですけれども、詳しい資料というのが、当時の資料は私ども探したのですけれども見つからないということで、その当時ちょっといた方等にお聞きをしました。掘削については昭和54年ぐらいから昭和56年ぐらいにかけて掘ったと思われるのですが、この中のどのくらいを要したかというのがちょっと、大変申しわけないのですが、定かではありません。ただ、寿荘自体が昭和56年4月1日から開館をしていますので、そのときには石打源泉というか、先ほど議員がおっしゃられたように250メートル掘ったということなののですけれども、そのお湯も使用したと。ただ、鉄分が多かったがために、すぐ使用が中止されたというようなことは聞いております。

以上でございます。

○本間恵治議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 新聞で見ますと、先ほど話した赤城村ですか、これふるさと創生資金ですから、平成元年から平成2年ですけれども、お湯が出たぞって、とにかく夢が実現したというのが平成4年になりますね。そうすると、2年か3年で大体お湯が出るような状況にどこでもなっていると思うのです。2年か3年掘削するということで。これ邑楽町の掘削の深さが250メートルということなののですけれども、他のところを私なりに調べると、大体浅くても600メートルから1,000メートルなのですね。そういうことを考えると、まだまだちょっとどんなふうは何年間で、6カ月ぐらいでやってしまったのだからその辺がちょっとわからないのですけれども、まだまだ挑戦する意味があると思うのです。250メートルなんていう浅いところだと、本当に箱根の大涌谷でも行かないと出ないのではないかなと。そういうことを考えて、町長、この辺のもう一度、邑楽町のやはり資源を再構築するというか、再発見するというか、その辺の町長の考えはどうか。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 温泉の今ある石打源泉を利用して、もっと深く掘削することによってその温泉の効能が出るのではないかということについて挑戦をしてみなさいというようなご質問ですが、過去の例を見ますと、先ほど課長がお答えをしたように、一定期間今ある寿荘のほうで利用した経緯はあるようではありますが、温度が24度ぐらいだというふうにお聞きしておりますが、成分がメタケイ酸ということ。それと、何よりも鉄分が多く含まれていたということで、寿荘で利用はしたものの、その後いろんな機械に支障を来したということで利用をやめたというようなことがあります。深く掘って果たして温泉が出るかどうか、これはやってみないとわからないのですが、それに挑戦してみろということではありますが、現段階では必ず温泉が出るということもわかりませんが、この付近の状況も、もちろん地下の問題ですからいろいろ踏まえていかないとなかなか勇気を持ってやるというようなことにもなりませんので、現状ではいろいろ状況をお聞きする中でそのようなことがあるのかどうかということがまず必要なのかなということでもありますので、そのように考えておりますので、今ある源泉を再利用して行うべきだということについてはきちっとしたお答えができなくて申しわけありませんが、現状では特に考えていないということでお答えしたいと思います。

○本間恵治議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 ということは、この近くでは太田市のイオンでも温泉を出しているのですよ。そして、あれだけの集客になっているわけです。であれば、近くのそういう業者というのですか、会社というのですか、そういう専門のところにぜひ投げかけてコンタクトをとることも大事ではないのですか。ただはなからもう嫌だよ、だめだよというのではなくて。そして、やってみて、それで夢を買うつもりになれば別に町長安いものではないですか。2万7,000人の人たちが希望と夢を持って。そんなに24年も5年も前で出ている。出したお金1億円なのですよ。そんなに上がっていないと思います、今工賃とかそういうのが。であれば、やはり町長はよく言っています町民が幸せであれば政治というのはいいのだよ。そういうことを考えれば、町長、夢を町民に与えて、寿荘なんかだって、もうつくって何年ですか。先ほど課長が言ったように、あっという間にもう30年もたっているのですよ。どこの町行っても宿泊施設を置いて、それでちゃんと休んでいただきますよと。赤城村行っても長野県行っても、そういうサービスを町民に与え、また来客に与えているわけですよ。そういうことを考えれば、平成24年度の決算で約2億4,000万円黒字が出ていれば、1度に払わなくたっていいのですよ。そういうこと、もう少し夢を町民に与えたり、また町長も夢を見てくださいよ。そういう流れの中で、そうすれば耐震補強云々なんてまたかけるとは思いますけれども、そこで耐震補強をして、きょうの質問にもあったけれども、宿泊施設つけられればいざとなったときの利用度が上がるわけですよ。それで、子供たちが一生懸命やって全国制覇したサッカーの優勝記念大会だとか、レスリングの北関東大会とか、ちゃんと上武先生にお願いして、そういうイベントをやれば、1億円かけたって2億円かけたってあっという間に成果が出ると思うのです。そうい

うやはり町長も有名人になってくださいよ。おれがやったのだという。署名運動でやったのではなくて、やはり町長が指導力を発揮して、それでもし失敗したらやめればいいのですよ。私も一緒にやめますよ、提案者だから。どうですか、町長、その辺は。ちょっと————答えてほしい。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 私も議員と同じように大きな夢と希望を持ち、そしていろんな形で行っているつもりでもあります。ただ、慎重にやらなくてはならない部分もやはり必要だというふうに思っています。邑楽町にシンボルタワーを建設したときに、多くの皆さんの協力をいただいて、町に何が必要なのかということの1億円の基金を国のほうからいただいて今のシンボルタワーがあるわけですが、これを建てるのにも大変な数倍のお金がかかって現在があるわけです。しかし、これは町民のシンボルとして当時の皆さんが決定して建てたということで、これはやはりこの施設を利用して、いろんな面で活用させていただいているということです。

しかし、議員のご質問は、温泉ということについて夢をかけるべきではないかということです。先ほどもちょっと慎重なお答えをさせていただきましたが、失敗をしても許される部分とやはり許されない部分というふうなものはあると思います。議員のご意見は貴重な今後の行政運営の参考にさせていただくということで対応させていただきたいなというふうに思います。町づくりは皆さんと、何回も申し上げますが、考えを一つにしてやっていくものだというふうに思っていますから、議員の温泉の夢、貴重なご意見として参考とさせていただきます。

○本間恵治議長 小島幸典議員。

○12番 小島幸典議員 町長、どうして昭和54年か昭和56年で掘削を止めてしまったのかなって。これは想像するしかないのですけれども、ちょうどこの時期に例の高島中学校跡地の買い戻しの時期にちょっと重なってしまっているのですね。この当時、1億5,528万4,000円も支出しているわけです、町は。そういうことを考えて、これできっとすぐには温泉掘削はしなくてもいいのだというようなことだったのではないかなと思います。ではないと、250メートルで止めてしまったなんて陸田のちょっと深いところぐらいの深さなのですよ。実際に私が調べた中では、600メートルから1,000メートル掘らないと大体お湯が出てこないというような私の調査なのです。そうすると、ちょうど時期が重なって、町にお金がなかったのではないかなと。そういうことを考えれば、やはり再挑戦、前の人ができなかったことを我々がやるぞと、そのぐらいの指導力というか度胸というか、これも子供たちに対しての教育なのですよ。だから、ある会社は、成功は99.9%の失敗に支えられた0.1%だよと、そういうふうに堂々と言っている偉い社長がいました。だから、怖がらずに何でもやれと、そういうような指導を私は青年時代に受けたので、ここで皆さんと一緒にもう一度考えたいと思うのです。そういうことを考えるととりあえず、とにかく先いくと人口はどんどん、どん

どん少なくなってしまうと。あそこ行くと、毎日行く気になればただで温泉に入れるよと。ということは、ただになると思うのです。だって515万円も1年間に水道料と光熱費でかかってしまうわけだから、現時点ですよ。そうすれば、我々の大先輩というか、仕事ができなかったと思うのです、途中でやめてしまったのだから。掘削したということは始めたことなのですよ。そういうことを考えると、町長、もう一度やはりみんなで勉強するために見積もりと、またそういう業者等のコンタクトをとって、それでここはだめなのだから、理論的にだめになったらだめでいいのですよ。初めからだめと言ったのでは進歩がないですよ。そういうことをお願いして、きょうの一般質問を私は終わりにします。どうもありがとうございました。

○本間恵治議長 小島議員に申し上げます。

小島議員の発言の中で一部不穏当な発言があったように思います。もし取り消したりする場合には本議会中に申し出てください。

小島議員。

○12番 小島幸典議員 不穏当な発言を取り消しますので、よろしくお願いします。

○本間恵治議長 わかりました。

暫時休憩いたします。

〔午後 2時12分 休憩〕

○本間恵治議長 休憩前に引き続き一般質問を行います。

〔午後 2時30分 再開〕

○本間恵治議長 教育長から発言の申し出がありましたので、許可します。

大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 先ほどの小島議員のこの2年間での事業費ということでご質問いただきましたけれども、八王子神社古墳の修復費として7万5,600円かかりました。そのうち2分の1の補助ということなので、3万7,800円ということでございます。よろしくお願いいたします。

◇ 小 沢 泰 治 議 員

○本間恵治議長 10番、小沢泰治議員。

〔10番 小沢泰治議員登壇〕

○10番 小沢泰治議員 それでは、通告に従いまして、2件あるわけですが、人口減少の邑楽町全町民のために何をすべきかというのと、あと1項目が多く町の現状をしっかりと見た行政執行をということで、町のこれからをどのようになさるか問うていきたいと思っております。

10番、小沢泰治です。まず最初に、人口減少の邑楽町全町民のため何をするべきかということで、ここずっと邑楽町、日本国中が減少時代に入ったわけですが、人口が減っております。特に邑楽町の人口の減りようは、ほかと比べても非常に減少率が高いということなのです。それで、邑楽町の人口、単独で邑楽町ですが、平成16年から平成25年、ことしもまたあるわけですが、平成16年から平成25年までの数字を出していただきました。そうしたら、平成16年が2万7,916人、それが平成25年で2万7,062人です。平成26年度、ことしの3月も出ているのですが、それについては2万6,833、これは日本人のみなのですが、そういうように邑楽町は毎年毎年減り続けております。その減り方も、東毛他市町、太田市、館林市、板倉町、明和町、千代田町、大泉町、邑楽町、この中を見ましても、大泉町については事情があって減りが激しいわけですが、邑楽町はそれに次ぎましてマイナス3.059%人口が減っているわけです。邑楽町の人口構成を見ますと、この減少傾向はますます強くなると思うのです。そういう中であって、邑楽町が減っていく人口の中でどのように町政を執行していったらいいか。それについて町長の意見、また教育長、町長のお話、教育長、そして副町長、各担当課の方にお話をお聞きしたいと思います。まず、減り続ける邑楽町の総人口について、町長、感想を一言お願いします。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 減り続ける感想ということですから申し上げますが、先ほど邑楽町が他の市町に比較して大変多いと。減少率が高いという話ですが、私は他の市町についても同じような状況ではないかなというふうに思っています。ただ、太田市の場合は、合併等があった関係、それから雇用の生産の多いところということを考えれば、そういった要件といいますか、人口がふえる要件はあるだろうというふうに思っています。邑楽町だけが特に減少率が高いというふうな認識は私自身持っておりません。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 今の町長のお話を聞きまして、私がつかりしました。なぜならば、0.数%の増減が非常に大事な数字なのです。先ほど太田市のお話出ましたが、太田市と邑楽町の差を見ますと5.824%なのです。5.824%ということは、毎年毎年それが続いたならば大変な違いになるわけです。ずっとそれが続いていくことによって大変な違いになるわけです。近隣の市町と大して変わらないというその認識が私は間違っていると思うのです。例えば東毛5市で一番減りの少なかったところが千代田町です。1.643%。そうすると、邑楽町は千代田町の倍減っているのです。それなのに大したことはないという認識が間違っていると思うのですが、いかがでしょうか。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 決して大したことないというようなことは申し上げていません。他の市町に比べて

邑楽町が極端に高いということの認識は持っていないと、そういうふうにお答えいたしました。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 町長、そういう認識だから、ですから邑楽町の発展はないのです。大して違いはないというその認識がもう間違っていると思うのですね。邑楽町が平成16年から平成25年、平成26年までの間、対前年でふえたのが1年だけあります。平成17年、1年だけです。町長が2期務めるわけですが、その間減り続けております。千代田町を見ますと、邑楽町と同じように平成17年度ふえました。その後千代田町は、平成18、19、20、21、22、23、24、25、その間に3年間、対前年増加しているのです。そういうことを考えたら、町長のお話は私はなっていない話、そのように理解するわけです。今近隣の市町の動向も話に入っておりますけれども、館林市も市としましては、東毛圏において一番地勢的に立地条件のいいところが私は館林市だと思うのです。それがマイナス2.628ということで、ほかの町をどうこう言うことはいけないかと思うのですけれども、やはり努力が足りないと思うのです。邑楽町が人口が減り続けている中、これは自然減、あるいは自然動態、社会動態、そういうことを見ますと非常に日本中が厳しい状態にあります。先ほどの質問で邑楽町が死んだ町になるというお話ありましたが、そういうことを胸に置いて行政執行なさるならば、私はもう少し前向きな、その施策をとるべきだと思うのです。

それで、一応他市町のことも今お話ししましたが、太田市が先ほど合併をしたからどうの、あるいは産業構造のこともあると思うのですが、合併をしたからというお話を町長なさいました。その辺で、町の資料を出していただいたのでしますと、平成16年度が旧太田市、旧尾島町と旧新田町と旧藪塚本町の数字が入っていないのです。14万4,132人で、今が21万3,084になっているものです。吉田住民課長にお願いしたいのですが、合併前の年、旧尾島町、旧新田町、旧藪塚本町、その個々の町の人口をちょっと教えていただけますか。

○本間恵治議長 吉田住民課長。

〔吉田紳二住民課長登壇〕

○吉田紳二住民課長 お答えいたします。

ただいまの太田市の合併前の1市3町の人口についてでございます。平成16年3月末になります。日本人のみの人口とさせていただきます。旧太田市では14万4,132人、旧尾島町では1万4,356人、旧新田町では2万9,906人、旧藪塚本町では1万8,955人、合計では20万7,349人となります。

以上でございます。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 課長、ちょっと済みませんけれども、20万7,349と21万3,084、それを比較して何人になるか、ちょっと済みません。申しわけないです。

○本間恵治議長 吉田住民課長。

〔吉田紳二住民課長登壇〕

○吉田紳二住民課長 お答えいたします。

平成25年と平成16年3月末の差ですけれども、5,735人となっております。

以上です。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 お手数かけて済みません。ありがとうございました。今5,735人太田市がふえているということですね。そうしますと、邑楽町が3.059%減っているわけですから、これは計算したら854人邑楽町は減っているのです。結果として邑楽町は3.059%マイナス、太田市は先ほどお話ししましたが、2,765ですか、そういうことなので、町長、努力が必要なのですよ。ふやすために何やったらいいか。私は常々お話ししていますが、それが足りない結果として、実数でこのように出てしまいました。そういうことから、ぜひしっかり町のために頑張ってくださいと思うのです。

それと、各行政区の、これは本当に大変な仕事だったのですけれども、これお願いして住民課で出していただきましたが、行政区の動向を見ますとやはり、過日でしたか、質問ありましたけれども、石打町営住宅の関係で、石打は非常にふえております。自然増減が7人マイナス、石打地区、それで社会増減が72人増加、それと転居のところを見ますと52人になっているわけですね。邑楽町全体的に見ますと、ほとんどがマイナスという状態になっております。たまたま石打だけがそんな数字になっておりますけれども、平成25年度1年間で231人、人口の純減がありました。そのほか、こういう時代ですから職権によって消除等があるわけですが、高齢社会あるいはひとり住まいとか、どこに行ったかわからない、どこから来たかわからない、そういうものもありますけれども、とにかく合計では231人1年間で減ってしまったわけです。そういう中で、この減りぐあいを、先ほど大したことないという町長の答弁ですが、少なくするために何が必要か。やはり邑楽町の立地的条件等、あるいは生活環境等、自然環境等、そういうものを内だけでなく対外的に発信していかなければ、ようやく鞍掛第三工業団地も埋まりましたけれども、人口の増加あるいは減少の食いとめはできないと思うのです。3.059%現に減ったわけですから。そのために、私何度もお話ししますが、邑楽町は幹線道路が通っておりますから、354号、122号、あるいは県道が通っております。縦横に幹線道路が走っているものですから、ぜひ、何度もお願いして申しわけないのですが、電光掲示板を設置していただきたい。これは非常に効果があると思います。なぜなら幹線道路は不特定多数の方が通過する、そういうわけですから、ちらちら動く看板をつけたならば、それに目がつく。その結果として邑楽町に人が寄ってくる。電灯をつけるとそこに虫が寄ってくるのと同じようなものです。人間も虫も動物なのです。生き物。そうすると、そういうものに目を引かれるわけです。それで、そのときに邑楽町の白鳥だとか、先ほど観光、いろいろ話出ました。白鳥だとか、あるいは観音様だとか沼だとか、それをアピールするわけです。あるいは、子育て施設

が充実している、教育施設が充実している、すばらしい地域なのだというものを外に発信しなかったら、邑楽町の現状では、町長の施策では邑楽町の人口をふやすことはできないと思います。ぜひその実行、これは予算措置をするにしても、各個人あるいは行政の教育関係においても流すわけです、邑楽町はこうだということで。充実した学校教育させています、しています。そういうことで、ぜひそれを教育行政も含め一緒にやっていただければと思うのです。

それと、この前私お話ししたかどうか、東北自動車道ができ、北関東自動車道ができ、インターが館林市と太田桐生インターが354号バイパスから見ますと一番近いわけですね。それで、太田桐生から、あるいは館林市からの中間点が、ずっと前の質問でもお話ししましたが、ここの真南がちょうど両高速道路の中間点なのです。そこに大きな看板をぜひ立てていただきたい。邑楽町はこういうふうに距離的に、高速道路のインターチェンジからこういう距離にあって、これだけ恵まれた地域なのです。災害はない平たん地。何をするのにも、教育においても最高ですからということで、そういうものを設置して、邑楽町の人間だけでなく、多くの外部の人たちに認知をしていただくということが大事だと思います。11. 何キロだったかな、ちょうど中間点が、そんなものなのですね。そういうことで、15分か20分で両方から来られますから。物流にしても、あるいは産業面にしても、やはり物が動くわけですから、そういった場合に、では南に向かうのだったら、館林インターから南に行くか、あるいは日本海側だとしたら太田桐生インターから行く。それを考えたら何にでも通用するところが邑楽町なのです。ですから、ぜひそれも実行していただきたい。あと、人口減少を食い止めるためにはそうなのです。そういうことが大事なのです。

それと、あと一つ、お金がかからないでみんな邑楽町に関心してくださるというのが一番いいわけですから、そういうことを考えた中で、チラシとかもありますけれども、そういうものでまた邑楽町の宣伝もなさってもいいと思うのです。そういうことがありますので、ぜひ邑楽町のよさを邑楽町の町民だけでなく大勢の皆さんに、日本中の皆さんに知っていただいて、住まうのだったら邑楽町、町長も先ほどおっしゃいました。邑楽町に越してこられた方はいいところなのだよ、いいところだ、そういうことを町長みずから先ほどお話ししてくださったわけですから、やり方によってはきっと私は人口はふえる、あるいは減っても少なくなくて済む。東毛地区で一、二番の減少率でなくて、一番減少率の低い町になるかと思います。

あと一つ、邑楽町のすばらしいところは、先ほど傍聴の方とちょっとお話ししましたがけれども、周辺中核都市のちょうど中心なのです。桐生市、足利市、佐野市、古河市、栃木市、あるいは行田市、熊谷市、深谷市、そういうところの中心なのです。新中野の団地が三洋電機さんが盛んのときにできました。また、工業団地がいっぱいできたときに、邑楽町周辺にできたときにできたのですが、新中野を見れば1代で2代目、2世がそこに住み着かなかったわけです。だけれども、住み着かないのだが、邑楽町のいいところは各中核都市に等距離であるところなのです。ですから、それをお話しすれば、1世代、2世代、3世代、そういう方々がここに住んでも、自然環境はいいし、

よかったということになると思いますので、ぜひ自信を持ってそのようなことをお願いしたいのです。

3項目ほどお話ししましたが、町長、項目ごとにいかがでしょうか。

○本間恵治議長 1質問1答弁ですので、1つずつ発言してください。町長3つ答えられません。1つずつお願いします。

○10番 小沢泰治議員 ですから、高速の中間点ということと、あと……

○本間恵治議長 1つずつお願いします。1つずつ、質問は。

○10番 小沢泰治議員 では、最初のほうからお願いします。最初の1項目めが電光看板。はい、お願いします。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 議員の手元に市町村別人口の推移、先ほどちょっと触れられましたけれども、あると思います。それを見ると、私が他の市町に比較して減少率が高くないという話を申し上げましたが、その割合を平成25年分の平成16年でやれば必ずしも邑楽町の減少率が高いということにはならないと思いますので、ちょっと試算をしていただきたいと思います。太田市を除いて全ての市町は全部減少なのです。そういうことを踏まえて電光掲示板についてお答えしたいと思いますが、それは議員が前からその必要性を認めておりますが、電光掲示板をつけたからといって、単に人口はふえるというものではないというふうに思います。それは宣伝効果はあるでしょうが、人口の増ということで考えれば、電光掲示板をつけたから即特効薬ということにはならないだろうというふうに私自身思っております。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 町長は役場の職員だから、税金で給料もらえたからいろいろ苦勞しなくも済んだのかもしれないけれども、民間企業、零細企業だとしたら本当に大変なことなのです。3.059%と1.643%が大したことないというその認識がもう首長としてなっていないですよ。そんなので町を引っ張っていくなんていうことを考えていたら大間違いだと思います。太田市はプラス2.765ですから、それとは比較にならないですね。でも、太田市がこのように伸びているのが、やはり私は合併効果が出ているのだと思います。それと、地場産業の隆盛といいますか、それもありますけれども、太田市は当初から、平成16年からずっと対前年ふえているのです。減少がないのです。固有名詞は悪いですが、富士重工業にしても、10年前は今のような、例えばBRZだとか、ああいう人気のある車、そういうのが出ていなかったわけですが、その中にありながら太田市がこのようにふやしているわけです。やはりこれは、皆さんよく上毛新聞で見るかと思うのですが、今度これやった、あれやった。やはり他市町に比べて先進的といいますか、その辺があるわけですね。ぜひその辺も考えながら、1.何%と3.何%は大して変わらないのだなんていう認識は捨ててく

ださい。よろしくお願いします。

それと、その次の電光看板とインターチェンジの中間点のお話です。それについてどうお考えであるか、お願いします。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 人口の増ということです。議員は、私のほうの町の3.1%減になっています。隣の千代田町さんが1.7%減になっていますというお話だったと思います。他の市町のことを申し上げますが、同じ邑楽郡の中でも4.3%、3.5%減じているところもあるのです。ですから私からは、他の市町のことですから、今申し上げたようなことで具体的に申し上げませんが、この人口の比較をしていただければそれは明らかになると思います。

その上に立って、今度は中間地点ということですが、邑楽町は、今言われますように、その地理的な要件でいけば大変その中間地点でもありますから、隣の町、隣の市ということで考えればそういった要素は私はあるというふうに思っています。同時に広域幹線道路は開通をして、利便性も高まってきましたから、そういうことを踏まえればというふうに考えておりますが、かといって中間地点だからということを考えて、やはりその地域のいろんな経済的な状況、いろんな物価の問題等絡んでくるわけですから、そういうことも全て考え合わせた上でやっぱり考えていく必要があるだろうと、そのように思っております。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 先ほど4.何%、これは板倉町なのですね。これは東洋大の関係だとかそういう関係で、三洋電機さんと同じです。パナソニックと同じです。そういうのがあって、昔の話すれば公務員さんには辺地手当が出たようなところで邑楽町と比較にならないようなところがあるのですね。それはそれとして、今度は明和町は1.837です、減りが。1.2%違うのです。それは本当にでっかい数字なのです。毎年毎年人口減、純減とかそういう出ていますけれども、それは0.0何%減っています。例えば群馬県が200万超えたことがあります。今198万です。そういうことで、本当のわずかの差なのです、毎年毎年は。だけれども、それは行政の自助努力といいますか前向きさ、取り組み方によって私は解消ができる。今言った、私がお話ししました電光看板も、中間点がここで東北自動車道からも北関東自動車道からもいいですよという、その看板を立てようという首長が認識がないようでは私は困るなと思うのです。いかがですか。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 認識がないということよりも、電光掲示板の設置によって人口がふえる特効薬にはならないだろうというふうに申し上げたわけです。議員の電光掲示板に寄せる思いというのは十分理解いたします。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 電光掲示板とは限らず、先ほど中間点という看板、そういうのでいいのです。館林厚生病院のところのアルファベットの看板見たことがあります。非常に目立ちますよ。それが必要なのですよ、民間は。行政にあってもそれが必要なのです。ぜひ前向きに考えていただきたいのですが、いかがですか。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 ただいまお答えしたことでご理解いただきたいと、このように思います。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 何を見ましても、今人口減少に伴う、あるいは経済の縮小、そういうのからしてみんな減少ですね。何の項目を見ても減少。これは、どこにも当てはまる傾向なのです。そういう中にあっても、やはり高齢者だとか身体障害者だとか、あるいは病院利用者、あるいは要介護者、そういう方々のことをよく肝に銘じて、やはり減少が続く邑楽町で全町民のために何をするか、それを考えていただきたいのです。一部の町民でなく弱者救済という立場から、ますますふえ続ける、これ確実だと思う、高齢者。子供たちもなかなかふやすことはできません。そういう中で、先ほどお話ししました高齢者対策、あるいは病院、あるいは身体障害、あるいは要介護、そういうことについて、こういう社会状況の中、経済状況の中、町長、どのようにお考えでしょうか。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 人口の減に伴うこれからますますふえ続けると思われる高齢者の対策をどう考えるかということですが、これは急速な高齢化社会に向かう中では、そういった高齢、それから病氣、寝たきりにならないための予防、こういうことは、これは大切なことですし、またおのずとみずからがそのような状況をつくっていかねばならないというふうに思っていますが、しかしなかなかそういう立場に高齢化ということになりますと十分な機能が働かないということもあります。したがって、これはまずみずからが健康に関心を持っていただいて、そして町のほうでも住民健診等を行っているわけです。積極的に健診を受けていただいて、そして早期発見、早期治療ということ、健康管理について今以上に住民の方に認識をしていただいて、病氣にならない、あるいは健康を保持するということを行政のほうも真剣に取り組んでいるわけですので、そういった形で理解いただければ、今以上に多くの高齢者の方あるいは障害を持っている方についても、そういった福祉面の充実も町では図っている、そのように思っておりますので、これからも充実を図っていくと、そのように考えております。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 病氣にもならず、人のお世話にもならず済むのが一番いいと私は思うのです。

それには、やはり生涯現役の社会をつくり上げる。あるいは、ボランティアではないですけども、奉仕をしながら何ぼかの収入も得られる、そういう社会を町が先頭に立って、あるいは農協さん、あるいは農業、工業も含めてそれをする必要があると思うのですが、平成26年度に行政改革という名目のもと、産業振興課を農業振興あるいは商工振興、そういうことで分離した、2つに分けてしまったわけですけども、役場の職員の数をふやすわけにはいかないような今時代なのです。そうしたならば、盛んに今唱えられております1プラス2プラス3は6だと、そういうことの認識を強く持っていたならば必ずや、産業を分離するのではなく、今の時代でしたら一緒にする、それが必要だと思います。

昨日ラジオを聞いていましたら、秋田県のある銀行が農業、1次産業、2次産業、3次産業を応援するためにいろいろ施策を考えて、会社だかを立ち上げて、そういうのを始めたのですよということで、NHKの第1放送でしたけれどもやっていました。そういうことで、町みずからが前向きに取り組むということですね。昨日、休み時間にお米でできた菓子をみんなで食べていました。あれが最たる1次産業、今6次産業を唱えていますけれども、あれが最たるものだと思います。そのようなことを町が町民みんなに参加していただくような格好で、協働の町づくりということで補助金を出すということをしてしまったけれども、あれも本当の一部ですが、プラスにはなると思うのですが、そういうのではなく、しっかり取捨選択しながら、町のためになることを人に責任転嫁でなくてみずから引っ張っていく、それがぜひ必要かと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○本間恵治議長 質問が、中身がどういう質問したのかははっきり明確に言ってください。でないと答えもあやふやになりますよ。

小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 ですから、高齢者あるいは病院にお世話になる、そういうことによって、町は行政サービスとして非常にお金がかかるわけです。それを防止するために、私が今お話ししたようなことだと思うのですけれども、それについて町長の考えを。人に任せるとするか、人に責任転嫁というかそうでなく、みずからがどうであるか、お聞きしたいと思います。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 議員の質問が高齢者、障害者の方々の福祉ということから……

〔何事か呼ぶ者あり〕

○金子正一町長 なので、ちょっとどうお答えしたらよろしいのかなと。その予防活動を、元気な高齢者の皆さん、それから障害を持っている方についてこうしてほしいというようなことについては先ほど充実を図っていくということでお答えしましたが、そのことが農業振興と商工振興に分けたことが欠陥ではないかというようなお尋ねですが、そういうことでは私は必ずしもそうでないというふうに思っています。なぜ産業振興課を2課に分けたかといえば、今議員が言われましたように

6次産業の話も出ました。それから、農業振興、商工振興を充実をしていく。これから今まで以上に何とかやっていくということを目的に機構改革を行ったわけでありますから、私はそれはそれでこれから充実して発揮できるものというふうに思っています。そのことが、議員が言われますように、高齢者の問題、それから障害者の問題というふうな話には、間接的にはなるかもしれませんが、直接的な問題としてはもっと分けた質問でお願いできればありがたいと、そういう考え方です。

○本間恵治議長 もう少し具体性を持って質問をお願いします。

小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 過日、ここにいらっしゃる議員の話で持ち切りになった場面があったのですが、多分その議員にしてみれば、本当にいいことをやっているな、周りの人たちが生き生きしているな、こうではなくてはいけないのだというふうに思っていると思うのです。それは、地場でみずからが頭をひねって考えてつくったものを町民あるいは近隣の方々に販売して、心豊かに生き生きと、それこそ社会奉仕しながら収入を得て、満足感を自分が味わい、生き生きと生涯が過ぎせる。それで、多分その議員は、そこに携わっている皆さんがピンピンコロリ、表現がいいかどうかかわからないですけども、ピンピンコロリの生涯であればいいな。ぴんぴんのときは、やはり生きがいを持っていいな、そういう社会をつくり上げようとするために私はやっているのだと思うのです。そのために、ぜひ町長も今後もそういうことに頑張っていただきたいと思います。

次に入ります。高額の年金受給者については、老後もますます安泰です。でも、邑楽町のほとんどの方というのは高額でなくて年金も少ないから、年をとってきたときに病院に行かなければならないのだけれども行けない、そういう方も大勢私はいらっしゃるかと思います。それには、公がやはりその方々にいろいろ手厚くしてあげる、それは大事かと思います。本当に苦しんでいる方がいらっしゃいます。ぜひそういうことを考えたときに、町長が何をなさればいいのか。そういうことについて回答ができるようでしたらお願いします。

○本間恵治議長 小沢議員、具体的に言ってください。町長答えられませんよ、今の質問の内容では。

小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 年金生活を送る町民が非常にふえてくるわけです。その中にあって、大きい額の年金をいただける方といただけない方がいらっしゃるわけですけども、大きい額であればそれで病院も、あるいは介護も何とか間に合いますけれども、それこそ介護でもあれば、もう箸にも棒にもかからないような状態。その日の生活が大変で、なおかかるということになったら大変なのです。そういう方を救うために、そういう方がほとんどですから、救うためにどう考えるか。例えば数字挙げますと、この人口構成、これを見ますと、58歳から67歳までの方が4,927人いるのです。これは、みんな予備軍ですよ。それより増して現実には、予備軍あるいはそれより年齢の下の方が今の高齢者支えているわけですけども、81歳から100歳までの高齢者は1,488人しかいないのです。それが今お話しした58歳から67歳というのが上がっていくわけですから非常に大変なのです。その

ほとんどが中小零細企業、あるいは農業、自営、そういう方がここに入ってくるわけなのです。そのときに、どのような町長として施策を打つか、お聞かせください。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 病院に行けないという話がありましたが、今日本は皆保険、全ての方が国民健康保険、あるいはいろんな保険制度に加入しているわけですね。年金の多寡、多い少ないによって病院にかかれない、行けないということは、私はないだろうというふうに思っています。その制度の中にも介護保険制度もあります。そういうことを利用していただくということができるわけですから、そういう政策がきちっとされているわけですから、私は病院に行けないとか病院にかかれないということは当たらないだろうというふうに思っております。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 病院に行く、かかるはできるのです。その後お金が払えないのです、ないのだから。手元にお金がないのですから。だとしたらどうします。病院に行くのにも車が運転できなくなればタクシーなりそういうもの、ほかの方に乗せていってもらいなりするわけですよ。非常に厳しい社会環境がこれから長く続くということです。その中で何をせねばならないかということです。お金がないのですよ、町長。町長みたいにいっぱいある人なら別。ないのです。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 そういうことにならないように、先ほどもお答えしましたけれども、日々健康管理に十分気をつけて、そしてみずからの健康はみずから守っていくということが、やはりそれに尽きるのではないかなというふうに思います。残念なことに病気になってしまったということになれば、それはその状況に応じて、やはり救済措置もあるというふうに思いますし、まずは先ほどお答えしました日々の健康管理をみずから病気にかからないような予防を進めていくと、やっていくと、そういうことが必要だというふうに思っています。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 ぜひ行政としまして、町として現役で社会の役に立てるようなそういう、ある議員の事業ではないですけども、そういうのを大々的にやってみていただければと思います。やはり生産の喜び、収穫の喜び、あるいは販売しての、それをお買いになった方の笑顔を見えますます元気が出る、そのような施策を打っていただければと思います。

将来を考えたときに、少子化対策というのは非常に大変だと思うのですね、人口減少しているわけですから。私は少子化対策については、国は高校までは、全てではないですけども、お金が来る。けれども、できれば20歳、22歳まで町がお金を捻出して、邑楽町に住んだ場合に、このように制度がありますよというのをつくり上げてもいいかと思うのです。なぜなら奨学金だとか、ある

いはそういう融資制度等ありますけれども、それをいただいて学校を卒業しても、卒業した時点からもう借金返済が待っているわけですね。利息はつかないにしても元本を返済していかなければならない。そのように、スタートラインに立ったときに格差がつかないような社会、邑楽町に住んだ人、そういう人のために、額は満額とは言わないですけれども、何ぼかの支援ができないものでしょうか。それは、歳入、歳出よく考えて、邑楽町の現実を直視して、やる気になれば私は実行可能だと思いますが、いかがでしょうか。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 今町のほうでは毎年事業計画を組み、予算を立て、そして執行をさせていただいているところでもあります。その中身は、今議員が言われますような町民の皆さんにできるだけ行政サービスが行き届くように事務事業を行っているわけでもありますので、特にこの部分だけというお話がありましたが、やはり公平、公正な事務事業の執行ということも貴重でありますので、そのような考え方でこれからも進めていきたいと、このように思っています。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 今事務事業のお話がちょっと出ましたが、過去にやはり、職員は少人数ですから、それで町民のニーズ全部満たすというのは非常に難しいのです。ですから、課、係を細分することによって、そのグループが小さくなってしまいうわけなのですね。そうすると、町民のニーズに応えられないというのが多くあると思いますので、ぜひその辺も再考していただければと思います。

1 問目の最後に、行政機能維持管理のための町民負担増の打開策は何かということであるわけですが、行政と教育行政についてもその辺でお話したいのですが、まず行政にあって、行政と教育行政も一緒ですけれども、平成25年9月10日に社会教育施設建設基金条例ができて、お金を積み立てて社会教育施設充実を図るのだということができました。こういう世の中であって、私は非常にいいことだと思うのです。ただ、その本当の目的が町民に合っているか合っていないかということなのです。先ほど子供たちのために何がしてやれるか、あるいは高齢者介護、身障者、病院利用者、そういう皆さんに何がしてやれるかというのは、総予算の中でどこにどういうふうに金を充てるかによって違うと思うのです。社会教育施設、とりわけ公民館、そういうものの充実を図ってやることは全町民にとってもいいことです。また、他市町から邑楽町を見たときにも、非常に邑楽町はいいことをやっているということで関心を持たれると思います。そのことによって邑楽町への転入者もふえると思います。

それに関連して、教育長にお話しし、聞きたいのですが、邑楽町には幼稚園もしっかりあります。保育園もあります。放課後の児童施設等もあります。そういう中で、学校が小学校4校、6年間、中学校2校、3年間、そういうことがありまして、私は一番大事なのは、やはり邑楽町で育った子

供たちが社会の荒波の中で何があっても乗り越えられる、そういう人間を育て上げるのがいいかと思うのです。そういう中で、今南中学校が、邑楽町の子供たち、中学校の子供たちのピークは1,490人いたわけなのですけれども、今762人ですね。また減ったと思います、ことは。そういう中で、南中学校が非常に子供たちが少なくて、今250名ですか。去年の数字かもしれないですけれども、250名なのですね。南中学校も邑楽中学校も同じ邑楽町に育った子供たちの義務教育の3年間なのです。しかしながら、邑楽中に通った子供と南中に通った子供は、普通の授業では約同じ。ただ、保育園、幼稚園、小学校、中学校という一つのラインといいますか、本当に同じ人たち、少人数の同じ人たちの中で育て、義務教育を巣立つわけですから、そうすると、その子供たちにとっても本当に体験不足の面が出てくると思うのです。ですから、その辺を加味したことで、あと勉学、授業のほかにクラブ活動があるわけですが、その活動の中で、邑楽中ではできません、南中ではできない。子供が少ない、あるいは先生の数が少ないために、顧問、副顧問等がないからできないのかもしれないですけれども、とにかく総勢が250人しかいないわけですから、幾つもある部活で活動ができない面もあるのです。それで、邑楽中を見ますと18あるのです。邑楽中学校は18あるのだけれども、その中で南中学校ではできない、ないという部活動が7つあるのです。18あって7つができない。それとあと、邑楽中ではあるのだけれども、一部、例えばバレーボール等を見ますと、邑楽中では男女ともあるのですけれども、南中では男子がない。そういう一部ないというのが4つあるのです。18中11。そういうことを考えたら、学校の規模が小さくなっている。あるいは、幼稚園から中学校まで同じ顔ぶれで育て上がった。社会に出る。それと、いろいろな好きな体験ができない。そういうことを考えたとき、教育長、私は早急に統合を考えなければならないと思うのですけれども、いかがでしょうか。早急に考えても、すぐ来年できるというわけではないのです。何年かかかるのです。いかがでしょうか。

○本間恵治議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 お答えします。

確かに人数の差は南中と邑楽中ではあります。今年度の5月1日現在で、邑楽中は526名、南中は250名ということで差はあります。それから、授業、学習と部活動は車の両輪ということで、子供が育つ上では両方大切な学ぶ場所だと思います。そして、確かに南中は部活動の数も少ないのも現状です。それで、我々も何とか平等で公平な教育環境を整えなければならないということで、統合も再編も考えております。手始めに、まず子供たちの気持ち、親の気持ちをアンケートをとりました。2校存続を子供たち、邑楽町全体です。関係者だけではなくて邑楽町全体ですから人ごととして答える人もいるかもしれませんが、子供は53%が2校存続を望んでいます。そして、保護者は59%が2校存続を昨年度の結果として望んでおります。それなので、中学校で言えば生徒の数の減少をにらみながら、どのぐらいになったらしなければいけないかということで、計画的に統合、再

編を考えていきたいということで、昨年のアンケートの結果をもとにしながら考えているところでございます。

以上です。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 教育長、甘いよ。社会に出たときにどういうふうに生きられるか。井の中で泳いでいるのではないのですよ。それこそ国内だけでなく海外もあるわけです。そういう中であつたら、やはりそういう荒波を乗り越えられるような環境をつくってやるのが先生であり、親であり、大人だと思うのです。私たちは先がないのですから、どうでもいいけれども、15歳の子供はそれから60年も70年も社会の中で生き抜く。やはり小さいときにいろいろ経験、荒波にもまれれば、それなりに社会対応が私はできるというふうに思っているのです。多くの人に接する、友達も多くいる、いろいろ苦勞もあります、結果として。なぜかという、ずっと幼稚園、小学校育ってきた。ほかの小学校も言えるのですよ。幼稚園、小学校って育ってきたのが邑楽中は3校が一緒になっている。南中はエスカレーターだから上っていってしまうということです。それを考えて、ぜひそれを実行するのは教育長のリーダーシップだと思います。内心想っているのは、きっと私と同じこと考えていると思うのですよ。親御さんに対しても、いや、子供たちのことを考えたらこのほうがいいのだ。だけれども、いろいろ近所のつき合い等があるから、そのままでいいや、このままなら何も当たりさわりもないや、そうなると思うのです。しかしながら、子供は中学3年終わったときは社会に出るわけですから、そのときを考えて、ぜひ教育行政実行していただきたいのです。それで、近所づき合いがどうのこうのというのは、私小学校のPTAを都合4年やりました。あと幼稚園もやりました。会長も町P連もやりました。高校の会長もやりました。そういう中で、やはり経験をいろいろさせるということが親の役目、大人の役目、特に先生の役目だと思うのです。それをまず考えて、子供たちは判断能力は、ある意味客観的な判断能力はないですから、友達がこれだけいるのだからそれだけでいい。あるいは、親御さんもどっちかというそういう傾向になると思います。それをしっかり見据えて、いや、そうではないのだ、教育はこういうものだ、また社会に出たらこうなのだということを考えてやっていただければと思うのですけれども、それには早急に手をつけなかったら、2年後、3年後にはできないですから。毎年毎年こういうふう子供は減っているのですから。人口。なので、ぜひ積極的に取り組んでいただきたいのですが、いかがでしょうか。アンケートはアンケート。教育長として、あるいは教育者として。

○本間恵治議長 大竹教育長。

〔大竹喜代子教育長登壇〕

○大竹喜代子教育長 お答えします。

適当に子供の気持ちを捉えたり、親の気持ちを捉えているということは、近所づき合いで捉えていることはございません。まず、その中学校2校はどうあるべきかという手始めに昨年アンケート

をとりました。真剣に考えた一つ的手段としてまずとってみました。その後どうするかということで、この数の減少を見ながら、また教育環境が本当に子供たちにとって平等であるかを見ながら、一番子供の人間形成にとっていいのはどうあるべきかというのを常に考えているところでございます。

それから、多いからいい子が育つ、少ないから環境が整っていなくてだめなのだという、そういう考え方はありません。多くても少なくても、やはり子供にとってきちんと育てていきたい。そして、多い少ない、一長一短ありますので、そういう意味ではこの町の子供をどう育てたいかということを教育行政方針に盛り込みまして、どういう子供を育てたいという、生き生きおうらなを目標に持ってやっているところでございます。ですから、これから先も真剣に考えていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 ここに、新聞の記事なのですが、小中の統廃合検討、伊勢崎市教育委員会です。年内に基本方針をまとめて実行するのだということで載っています。これを見ますと、ちょっと読ませてもらいますけれども、徳江基行教育長は取材に対し、義務教育として、学力や社会性、運動能力を育む上で学校はどうあるべきかを一番に考えていると。今、少なくとも大丈夫なのだというお話ししましたが、少ないといろいろなものに会える機会が少ないのですよ。だから、社会に出ていろいろ苦労するというのがあるのですね。私は長柄中学校を卒業したのですけれども、それで男子校行って、自転車を通った。だから、いろいろこのこれがなかったの、社会に出て、本当に自身にしみて感じました。でも、社会で人に接する職業だったものですから、私は成長できました。やはり小さいときにその経験をさせてあげる。例えば館林市の一中、多いですよ。私たちの3倍ぐらいクラスがありました。そういうようなのは、高校で一緒にいても、ちょっと違うのですよね、私たちと。そういうことがありますので、ぜひ前向きに考えていただきたいと思います。

それと、それを早く実行することによって、邑楽町の社会教育施設としてそれを十分に機能させることができる、金をかけずに。そういうことがあるものですから、町長が先ほど言いました少人数と大きい学校との兼ね合いと、それを統廃合することによって私はいろいろな経験ができるということでいいことだと思います。また、それをすることによって南中学校があきますから有効活用ができると思います。その辺について一言お話しください。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 大変申しわけありません。仮定の話になってしまいますから、そのことについてはちょっとお答えはできません。先ほど議員の発言の中に、社会教育施設建設基金のお認めをいただきましたという中で、そのくだりで社会教育施設をつくるということは大切なことだと。議員のほ

うから大変貴重なご意見をいただいて本当にありがたく思っておりますし、そのことは中央公民館を建設をすることということに議員がお認めになったというふうに私は理解をいたしました。でありますから、中学校の統廃合について教育長がアンケート調査をとったというのは現状の分析をしているという状況です。まだその段階で、南中学校が空き家になったらどうするのだということを私はお答えできないということはそういうことなので、ご理解を賜りたいと思います。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 私個人的には、財源が少ない中、高齢化、少子化、本当に病院にもかかれなという方が多数、これからますます出てくる。そういう中にあるのは、やはり財源は有効活用するべく、今の中学校の統廃合と中央公民館をあそこにする、そういうことを私は考えております。ぜひよろしくお願いします。本年とった予算は繰越明許にして、次の年に回していただければと思います。

その次の質問にさせていただきます。多くの町民の現状をしっかりと見た行政執行をということで、邑楽町が、最近はしていないのですけれども、町政座談会といいますか、対話集会、それやっていると思うのですが、これまでやっていた、ここ何年かはやっていないと思うのですけれども、それについて課長のほうから一言お願いします。

○本間恵治議長 橋本企画課長。

〔橋本喜久雄企画課長登壇〕

○橋本喜久雄企画課長 お答えをいたします。

町政座談会についてのお尋ねかと存じます。現在の第五次総合計画の後期計画が策定された、前年の平成22年7月下旬、町づくり座談会を3会場、旧三村単位で開催をいたしました。また、同年8月4日にはこども広聴会、また同月6日、29日には出張町づくり座談会を2会場で開催をしてございます。平成22年が直近でございます。それ以前ということになりますと、第五次総合計画策定に伴う広聴会、これは平成17年でございます。9年前でございます。こちらにつきましては、町内の1から12までございます投票所ごとに12会場で開催をしてございます。

以上でございます。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 そういう中で対話集会が行われたということですが、各会場とも人の寄りが少ない。それは、邑楽町政に対して魅力を感じていないのではないのかな。人寄せパンダではないのですけれども、やはり魅力あるぜひ首長になっていただいて、多くの町民に集まっていたらいい、今後の邑楽町をどのようにしたらいいか。町民各層の意見をお聞きして、それに基づいて長期総合計画等を作成すればいいかと思うのですけれども、やはりローリングをして、見直しをして、いいものはいい、悪いものは悪い、取捨選択もしなければならぬ、時代に逆行しているような事業をやってはいけない、そういうことがあると思いますので、ぜひ多くの町民に集まってい

て、心から自然に思っていることをお話ししていただける場をつくっていただきたいと思いますと思うのですが、町長、いかがでしょうか。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 町政に対していろいろ会合の中で出席者が少ないということで、町民の方が町政に対しての魅力を感じていない。その結果が少ないのではないかなというようなご意見ですが、逆に今行われている町政について満足をしているというような状況も片やあるのかなというふうにも、私はそういうことを思っている方々も多くおられるのではないかなというふうに思いますので、単に出席者が少ないから町政について魅力を感じていないということには当たらないだろうというふうに思っています。これからの第六次総合計画の中では、やはり今議員が言われましたように、多くの皆様のご意見を拝聴した中でこれからの計画をつくっていくということ。その前段としては、2,000人からのアンケート調査も含めて、そしてそれぞれの町民の皆様の持っているご意見も拝聴して、お聞きをした中でその計画をつくって、結果としていい町ができるように努めていくと、そのようにこれからも進めてまいりたいと思います。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 そういうことをぜひしっかりやっていただきたいわけですが、素晴らしい邑楽町をつくるのが私は町長の仕事だと思います。そのもとに課長以下職員がついているし、議員は執行部の提案したものに対してチェック機能を果たす、あるいは提案する、それが仕事だと思います。

そういう中で、354号バイパスが貫通したわけですがけれども、もう貫通するのはいつというのは大体わかりでしたよね。大澤知事も2期が終わります。8年。町長も2期が、大澤知事よりはちょっと遅いのですが、そういう中で、十分354号バイパスは認識して、この邑楽町議会あるいは町長ということで町の執行をしてきたと思うのです。その件についてどういうふうに思っているか、お聞きしたいと思います。今まで7年たちますけれども、私ははたから見ていると、素晴らしい道路ができたのだけれども、何もそれに手はつけていないというふうに見ているのです。鞍掛第三工業団地から354号につながるのは、もともとつながるべき道路ですからそれは別にして、どう考えているのでしょうか。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 国道354号は、ことしの9月に板倉町から高崎市まで開通ということが予定されているようです。町づくりについて、それを何も考えずにやってきているというようなご意見ですが、その部分も含めて町全体の状況を考えた上で町づくりを今までお世話になったということもありますから、これからもまだまだ町として、よいものも多くあります。したがって、そういったことを

活用していく中で取り組んでいきたいと、このように思っております。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 金子町長は、一汽車おくれではなくて10年おくれていますよ。もうあなたは議員になったときに先のことを考えて、どうしよう、こうしよう考えなくては。でたらめで退職金0円なんていうので当選しているからそんなことになるのですよ。先を考えて、社長は頑張っていたきたい。いかがですか。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 町づくりは将来計画をもとに行っているわけですね。ですから、第五次総合計画、平成27年に終了いたします。やさしさと活気の調和したまちを目指して今日まで来ています。その上に立って第六次総合計画をつくるわけですから、私は何もしていない、10年おくれているという議員の考え方がありますが、それはそれとして、これからも前に向かって努力をしていきたいと、このように思っております。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 私は、10年先を見据えた中で取り組んでいなかったら、いつもいつもおくれてしまう。会社であればそのとおりです。過日、何日か前に帝国データバンクというところの調査の偉い人とお会いしました。それこそ膝を交えながら話しました。そういう中であっても、そういうものは必要です。

そんな中で、邑楽町の中央の拠点はここにあります。南の拠点が南中学校にします。北の拠点は福祉センター寿荘をしっかりといいものにつくり上げて、その3点をしっかりと融合、結んだ中でこれからの邑楽町を考えれば私はいいと思うのですけれども、南の公民館、社会教育施設、体育館、プール、校庭、教室、特別教室、音楽も芸術もいろいろできます。それと、北の今の福祉センター寿荘、場所はあそこは限りません。それを考えておりますけれども、町長、いかがでしょうか。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 町づくりは、町全体を視野にして取り組んでいくべきだというふうに思います。議員のほうから具体的に3点ほど示されましたが、その考え方も当然あると思います。しかし、究極は町全体の状況を見据えた中でどうつくり上げていくかということに尽きるわけですから、これからの、今までの10年間もそのような考え方で来たであろうし、これからもそういったことを見据えて、邑楽町全体の中でどう町づくりをしていくかということに思いを寄せて頑張っていきたいと、このように思います。

○本間恵治議長 小沢泰治議員。

○10番 小沢泰治議員 ぜひ、町長、第五次総合計画で、あなたはローリングをしなかったから今の

ような平成26年度の予算になってしまったのです。なぜローリングしなかったのですか。

○本間恵治議長 金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 総合計画は、前期、後期に分かれておりまして、その都度ローリングは行っておりますので、その未実行を見据えた中で行っていますので、その心配には当たらないと、このように思います。

○本間恵治議長 以上で小沢議員の持ち時間は終了いたしました。

なお、先ほど小沢議員の発言の中で不穏当な発言がありました。もし取り消す場合には後ほど申し出ていただきたいと思います。

◎散会の宣告

○本間恵治議長 以上で本日の日程は終了しました。

お諮りします。あす6月18日は議案調査等のため本会議を休会したいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○本間恵治議長 異議なしと認めます。

よって、18日は議案調査等のため本会議を休会とすることに決定しました。

最終日となる19日は、午前10時から会議を開きます。

本日は、これにて散会します。

お疲れさまでした。

〔午後 4時01分 散会〕